

503  
166

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

始





503-166

訂增

# 精神分析法

廣島高等師範學校教授

久保良英博士

著



大正  
11. 11. 16  
内交

東京中文館藏版



## 序

本書はキンナ大學の精神病学教授シグムンド、フロイド博士の學説を集成したものである。フロイドが今より二十二年前にヒステリーの一新療法に關する論文を公にし、それに續いて夢・神話・藝術的作品・子供の性慾・日常生活に於ける忘却や誤謬・頓智・滑稽等に就て新しい解釋を試みたけれど、當時その眞價を知るものは極めて尠かつた。氏の新説が斯界の研究に一大暗示と革命とを齎らすものであると認めらるゝに至つたのは實に最近六七年の間である。殊にこの二三年はフロイド及びその一派に屬する研究や批評の論文が續々と米國に於て出版されて居る。氏の大膽なる主張に對しては兎角の批評はあるが、慥かにこれまで耕し盡したと考へられた土地から新たな礦物を發掘したばかりでなく、尙未開の土地からも色々の礦脈を發見しつつあるのである。

予が氏の學説の眞價を知るに至つたのは實に恩師スタンレー、ホール博士の賜



である。先生の一週二回の講義の中にフロイドと其反對派アドラーとの名が聞かれない時は殆ど無い位であつた。蓋し先生の偉大なる想像的傾向と先生の主張たる發生的見地とが、フロイド及びそれに聯關せる學說に甚深の興味を有せしめたに相違ない。クラーク大學の二十週年記念祭にはフロイド一派を遙々歐洲大陸より招待して講演をなさしめた一事でも、ホール先生が如何にフロイドの學說を重んじて居られるかと分かるのである。予がフロイド及びアドラーに關する知識を得るに至つたのは、全くホール先生の啓發によるもので、若し本書にして取る所があり、之によりて新研究の暗示を得る者があつたならば、そは一にホール先生の賜といふべきである。

大正六年十月

著者

### 増補再版に就て

精神分析法は從來の心理學が搜りを入れたよりも遙かに深い地層に下つて行つた。吾人がヒツポクラテス以來有する四種の氣質に一步を進めて數種の基本的機制のあることを教へた。例へば吾人には受動的と發動的、利己的と利他的との對偶的性向があることを闡明し、人生の最初の三四年間に、既に晩年に結果を表はすべき衝發作用を形成し、又この幼少の時期に於てオーソリチーに對する各個人の基本的態度が決定されることを實證し、尙一方に欠陥あるものが補償作用によりて却て偉才を發揮するに至ることや、諸種の相反的活動の集團たる吾人精神の統一の必要を明かにしたことは、確かに精神分析法の賜である。只斯法の評價を妨げ、その創始者に對して非難を浴せるものがあるのは、その研究が性慾に餘りに密接に關聯して居る爲で、米國に於けるフロイドの古き學徒ですら攻撃をするものがある位である。併し幸にもアドラーやユングなどに指導される若い精神分析者によりてその見地が擴大され、従つてその方法は心的生活の凡ての情的要素



に適用され、道德上何等の非難を被ることなくして研究を繼續され、能率や健康の増進に著しき貢献をなして居る。

以上はホール先生が「最近兒童研究概観」の論文中に述べられた大要であるが、實に精神分析法は着々として諸種の方面に吾人の從來企及しなかつた新事實を提供しつゝあるのである。尤も此度の大戰開始後彼の奥國に於て如何なる研究が行はれつゝあるか、或は一時戰亂の爲めに研究が中止されたか吾人の知る能はざる所であるが、之に反し米國では幾多の研究者によりて相變らず研究を繼續され、一方にはフロイド及其その門下の著書の始んど凡てが英譯される有様である。予は本書公刊後手にした此等の米國に於ける研究や翻譯に基いて、雜誌に又は講演に卑見を開陳したことがあるが、今回本書の再版に際して其等を一括し、増補として茲に添附することにした。讀者若し之によりて精神分析法のその後の進歩の一端を知らるゝことが出来れば本懐の至りである。

著者

## 目次

第一章	精神分析法の起源	一									
	一、フロイドの發見	二、フロイドの主張	三、抑壓作用								
第二章	分析的治療法	三一									
	一、一ヒステリー患者の治療	二、R嬢の回復	三、分析的治療法の範圍								
第三章	夢の解釋	六一									
	一、夢の解釋法	二、夢の思想	三、壓縮	四、轉移	五、描寫	六、二次的推敲	七、夢に於ける情緒	八、夢の材料とその淵源	九、代表的の夢	十、内精神的監視	十一、夢の種類
第四章	性慾と子供	一五五									
	一、性の意味	二、性慾の倒錯	三、性に關する質問	四、自己色情	五、對手を要する性慾	六、對手の選擇	七、子供の性的				



發達 八、リビドー

第五章

神話と藝術的作品……………二一七

- 一、英雄の生ひ立ち
- 二、英雄神話の分析
- 三、ハムレット劇の分析
- 四、ダ、ヴェインチの生涯
- 五、ダ、ヴェインチの解剖
- 六、ワグネルの「さまよへる和蘭人」
- 七、トルストイ伯の生ひ立ち

第六章

忘却と誤謬……………二八一

- 一、固有名詞の忘却
- 二、語句の忘却
- 三、言ひ損ひ
- 四、讀み損ひ
- 五、書き損ひ
- 六、置き忘れ
- 七、實行の忘却
- 八、實行の誤謬

第七章

頓智・滑稽及び喜劇……………三一九

- 一、壓縮
- 二、轉移
- 三、間接的表出
- 四、頓智の快感
- 五、頓智と夢との異同
- 六、滑稽と喜劇

第八章

精神分析と教育……………三四五

- 一、性慾と宗教との關係
- 二、昇華作用とは何か
- 三、子供に於ける昇華作用
- 四、職業の選擇
- 五、個人教授と學級教授

第九章 結論……………三六七

- 一、フロイドの心理學
- 二、ジヤネーの批評
- 三、アドラーの批評
- 四、レーエンフェルド及びシユテルンの批評

附録……………三九二

- 一、吃音者の精神分析的研究
- 二、トテムとタブー
- 三、ユングの聯想實驗法

増補

第一 アドラーの補償説……………四三三

第二 お伽噺の精神分析……………四七二

第三 不良少年の精神分析……………五〇八



第四	性格の分析的研究	五三九
第五	戦争と死	五五九
第六	女流小説家ブロンテの心理分析	五七九
第七	グレイヴイヴァ物語	五九二

— 目次終 —

## 第一章 精神分析法の起源

### 一、フロイデルの發見

精神分析法と云へば直ぐにフロイドの名が聯想される。しかしフロイドは精神分析法を發達せしめた人で、此方法を始めて案出したのは決して氏の功績でない。フロイドが未だ一學生の身で、最終の試験に合格しようとして忙しがつて居た際、オーストリアの醫師ヨゼフ、ブライエルが千八百八十年より同八十二年の間に始めて精神分析法を一ヒステリー患者に試みた。其患者は二十一歳の婦人で、知能も可なり發達して居た。二ヶ年餘り病氣して居る間に、身體及精神上の障害が烈しくなつて來て、重患と認めらるゝに至つた。その病氣といふのは、右側の手と足とが烈しく麻痺を起して、全く無感覺となるので、往々左側の手足にも同様の現象が表はれた。眼球運動の障害・視力の減退・頭部を正しく保持することの困難・神經性



咳嗽・栄養物攝取の際の嘔吐を惹起し、或時の如きは烈しく渴けるに拘はらず、數週間一滴の水をも飲めないといふ奇現象を呈した。談話の力も漸次減退し、終には國語すら話すことも又理解することも出来なくなつた。かくて最後には無意識・錯亂・譫妄の状態に陥り、人格の轉換をも生ずるやうになつた。

如上の容體を聞くと、醫者でない讀者でも直ちに、その患者の腦髓が恐らく烈しい障害を蒙つて居て、遠からず一命を失ひはしないかと想像するであらう。處がその女を診断して見ると、心臓や腎臓などに何等の故障もない。又別に腦に有機的の傷害があるのででもない。凡て局部的障害がなくして右のやうな症狀を呈し、且つ一方に強度の情緒的障害があり、而かもその症狀が細かな點に於ては論理上期待さるべきものと異なつて居る場合には、希臘以來醫學上の謎となつて居るヒステリーの名が與へられ、別に生命に關する危険はない、症狀も自然に治癒するであらうと考へられて居る。この患者もやはり醫師の目から見ると、純然たるヒ

ステリーに罹つて居るやうである。而してこの病氣が如何なる機會に起つたかといふに、曾て懐しい父の大病を看護して居た時に、初めて病氣が起つたので、已むを得ずその看護をやめてしまつたが、その後父なる人は死んでしまつたといふに過ぎない。

診断の結果、病氣が腦の傷害に基かずして、ヒステリーであるといふことが分かつて、其て治療の見込がつかぬとは必ずしも言へない。烈しい腦病になると、殆んど醫療の効果が表はれないが、ヒステリーに對しても、醫師は殆んど無能力で、やはり溫和なる自然にその治療を委せて置くの外はない。故に病氣がヒステリーであると分かつて、患者の境遇がよくなると言ふのでない。之に反して醫師の態度は變つて來る。即ち醫師は普通の腦病に對する程に、ヒステリーに對し興味を感じないのが普通である。かの卒中や痴呆などの患者に於ては、腦髓に於ける故障が醫學上充分に研究されて居て、某の病狀は某の原因から生ずるものであ



るといふことが知れて居る。處がヒステリー患者に現はるゝ、症状は全く雲々掴むやうで、解剖・生理・病理に關するあらゆる知識を以てしても、ヒステリーの眞性を捉へることが出来ない。即ちヒステリーに對しては、醫者も素人も等しく無能と言つて差支ない。それで醫者の方では、自己の價値ある知識が、この病氣に對して全く無力であるといふ點から、心中甚だ心よくない、自然ヒステリーに對しては同情がなくなり、ヒステリー患者は自分等の學問の法則を蹂躪する異教徒であるかのやうに考へ、故意に症状を誇張し、假病を使ふ我儘者であると見なして、彼等に對する興味を失つてしまつた。

處がプロイエルはかやうな態度を以て、ヒステリー患者に接しなかつた。尤も最初はその處置に當惑したが、絶えず同情と興味とを以て患者に接した。この同情と興味とが遂に氏をして意義ある發見をなさしめたのである。初め患者が失神の状態に陥つた時の有様を観察して居ると、何かブツ／＼獨り言をいつて居るの

が常であつた。恐らく之はその時、精神上に浮かんで居る思想から聯合して生ずるものであらうと考へられた。そこで氏は患者を一種の催眠狀態に導き、患者の口から洩れる言葉を幾度も繰返して、それから如何なる聯合が行はれるかを知らうと試みた。患者は氏の暗示に感じて失神中思想の主位を占めて居た事柄を述べた。而してさきに洩した數語はこれから發したのであつた。その事柄は甚だしく悲哀に充ちた美しい空想で、患者が父の病床に侍して居た時の狀況が元となつて居た。處が不思議なことには、患者がその空想を物語る度毎に、精神生活の健康を回復することであつた。この健康狀態が數時間も續くと、翌日は又失神の状態に陥る、又新に出來た空想を話させると前の如くに健康に復する。そこで精神が變調を來して失神の状態に陥るのは、この烈しい情緒性の空想から生ずる興奮の結果であると思へざるを得ないことになつた。當時この患者は不思議にも英語を理解し英語で話して居たが、この新治療法を談話治療 (Talking cure) と名づけ、



又滑稽的に煙突掃除(Chimney sweeping)とも名づけた。

茲に於てプロイエルは一の療法を思ひ當つた。即ちかやうな淨下療法を以てしたならば、斷えず精神に曇りが生ずるのを、一時晴らすことが出来るばかりでなく、もつと永久的効果を擧げることが出来るに相違ないと考へたのである。而してその方法としては、患者を催眠状態に導き、病氣の症状が初めて發生した時の状況とそれに結びついて居る事柄とを憶ひ出させ、それから生じた情緒を自由に解放させると、その症状は忽ち消失するといふのである。或暑い夏の日、この患者は非常に渴を覺えた。しかも何といふことなしに突然水を飲むことが出来なくなつた。彼女は水を飲まうとしてコップを取上げる。しかし之を唇につけようとすると、恰も恐水病にでも罹つたやうに突然之を押しやるのであつた。而してこの數分間明かに恍惚状態に陥るのであつた。それで已むを得ず果物や甜瓜などを食べて僅かに渴を醫するに過ぎなかつた。かゝる状態が約六週間ばかり續いた

後で、或日催眠状態に於て患者は次のやうなことを話した。患者に一人の嫌ひな英吉利生れの女教師が居た。曾てその婦人の室にはひつた時、自分の嫌ひな小犬がコップから水を飲んだといふことを、さも嫌やだといふ風をして物語つた。しかし患者はその時禮儀上遠慮をして、いや／＼ながら黙つて見て居たといふことである。然るにこの時抑壓された怒を充分に強く發表せしめた所が、患者はやがて水を請求し、何の苦もなく多量の水を飲むことが出来、コップを唇に當てながら催眠状態より覺めた。かやうにしてこの恐水病發作はその後全く治癒せられたのである。

從來かやうな方法でヒステリーの症状を治療したものもなく、又その原因を探究闡明したものもない。故に若しヒステリーの多くの症状がかやうな風にして起り、且之と同一の方法によりて治癒されるといふことが分かつたならば、實に此方法は偉大なる發見といふべきである。プロイエルは之を確信して研究の歩を進



め、もつと烈しい症状を捉へてその病源を一層秩序的に探索し始めた。所が多数のヒステリー患者の原因は凡て同様な形式で、或る情調を帯びた経験の残滓に基づくのであるといふ事が分かつた。後に之に心理的外傷 (psychic trauma) といふ名を與へた。その症状の性質は其を惹起した周囲の状況に對する關係によりて明瞭にすることが出来る。蓋しヒステリーの症状は一として偶然的なるものなく、皆過去の経験が原因となつて、それによりて規定せられるからである。其症状を惹起す経験は常に單一のものに限つて居ない。同じやうな諸種の経験が繰返されて、或一つの症状となつて現れることが多い。而してこの諸種の外傷は経験された年月順に反復せらるゝもので、その順序は最新しいものが最初に表はれ、古いものが順次に後に表はれてくる。従つてその第一の経験即ち最も重要な外傷に直接到達することは非常に困難で、先づ最初に表はるゝ新しい経験を順々に除去して後に初めて到達することが出来る。

プロイエルは前述の如く先づ患者の水を飲むことを厭ふ原因を検索したが、次に視力障礙が全く外的原因に基づくことを發見した。即ち彼女の自白によると、父の病床に侍して居た際に、父は不意に彼女に何時であるかを尋ねた。この時彼女は目に涙が一抔満ちて居たので、はつきり時計の針を見ることが出来ず、爲めに眼を出来るだけ見張り、且つ時計を近くに引寄せて見た處が指針の面が非常に大きく見えた。而して病人に泣顔を見せまいと出来るだけ涙を押へようと努めたといふことである。これが彼女の過大視症と斜視とを生じた原因となつた。この他の症状も亦多くは病父の看護の際に初まつて居る。或る夜病父が烈しく發熱し、且つギンナの町から手術の爲めに來る筈になつて居る外科醫を待ちあぐんで、非常に心配しながら看護して居たことがある。母は暫らくの間外出し、その間彼女は右の腕を椅子の後に垂れかけたまま、父の病床の側に居たが、間もなく彼女は夢幻の状態に陥り、黒い蛇が壁の處からノロノロ這ひ出して來て病父に噛みつかう



とするのがあり／＼と見えた。尤もこの家の後方の牧場には多くの蛇が居て、彼女は屢その蛇に驚かされたことがあつたので、此等の経験がこの幻覺の材料となつたに相違ない。そこで彼女は蛇を追ひ拂はうと努めたけれど、どう云ふ譯か麻痺したやうに感ぜられた。椅子の後ろに垂れかけて居た右の腕は全く麻痺を起して感覺がなくなつた。その指を見て居る間に小さい蛇と變つて行つた。恐らく彼女は麻痺した右手で其蛇を追ひ拂はうと努めたに相違ない。かやうにして右手の麻痺及び感覺脱失と蛇の幻覺との聯合が出来上つた。この幻覺が無くなつた時に、彼女は苦悶のあまり何か言はうとしたが、如何なる言葉も口から出て來ない。漸く英語の子守歌の言葉を思ひ出した。其後彼女は英語でなければ考へることも話すことも出来ないやうになつてしまつた。而して此光景の記憶が催眠状態に於て再生された處が、病氣の發生以來固執して居た右腕の麻痺が全く治療されたといふことである。

## 二、フロイドの主張

フロイドが數年間多くのヒステリー患者を取扱つた結果、全くブロイエルと同一の經驗を得たといふことである。氏の患者の中に約四十歳の婦人があつた。それは顔面痙攣を有し、何か興奮した状態で仕事をする時に、これといふ理由もなく特殊の舌打をする癖があつた。その原因を探ると二種の經驗から來て居る。何れも出来るだけ靜かにしようとなつた結果、却て反意志的に寂寞を破つて音を發するに至つたといふことである。第一の場合は子供が病氣した時、その眠を覺ますまいと非常に用心したことである。第二の場合は或日子供等と馬に乗つて居た時、俄かに雷鳴に逢ひ、馬が驚き跳ね廻るので、若し何かの音でもさせたら尙驚くだらうと思つて、努めて靜肅を保たうと努力した結果であるといふことが分つた。この他多くのヒステリー患者の實例を氏の著書「ヒステリーに關する研究」中に掲げて居るが、その結論として氏は「吾人のヒステリー患者は凡て記憶せる



事物から苦しめられて居る」と述べて居る。即ちヒステリーの症状は或經驗即ち外傷の殘滓及び記憶的表號であると主張して居る。

この記憶的表號が吾人の日常生活に多大の印象を有することは言ふまでもない。例へば吾人が須田町の四辻に立つて廣瀬中佐の銅像を見上げる時に、その表號に聯關して吾人は種々のことを考へるであらう。閉塞隊の勇敢なる行動から杉野兵曹長の遺族に至るまで、同中佐を中心として當時の光景が聯想されるであらう。又泉岳寺に詣で、大石良雄以下の墓標を見ると、そゞろに當時の夜討のことや、四十七士が吉良の首級を提げて泉岳寺へ引揚げた有様などが聯想されるであらう。この他記念品や記念碑も凡て記憶表號で、恰もヒステリー症状のそれ等の如く、諸種の記憶殊に情調に富んだ經驗の記號である。殊に苦痛の經驗に至りては、その印象が殊に深く、その記號も長く吾人の精神中に止まつて居る。而してこの病源的外傷に吾人の精神が固執して居ることは非常に重大なことで、殊に神

經病の特質である。前に述べたブロイエルの例を見ると、彼女の外傷は凡て病父を看護して居た時に生じたもので、彼女の症状は凡て父の病氣と死との記憶表號と見做すことが出来る。即ち其等の症状は悲哀時の一の記念碑である。病父の死後その悲哀に精神が固執することは決して病的でなく、却て正常の情的行爲である。但しフロイドによりて擧げられた一種の顔面痙攣は、その起源が十年乃至三十年以前に溯つて居て、かやうな過去の出來事に何時までも固執して居ることは病的に相違ない。ブロイエルの患者も放棄して居たらば、其外傷が何時までも醫せらるゝことなく、病的に長く固執して居たに相違ない。幸ひにブロイエルが所謂淨下療法を施したので、早くその外傷的經驗を一掃することが出来たのである。病的に長く固執したか否かに拘はらず、此等のヒステリー症状とその患者の經歷との關係を調べて見ると、何れも、強烈なる興奮的情緒が自由にその發露を見出すことが出來ず、無理に抑壓された結果であるといふことが分かる。ブロイエ



ルの患者が水を飲むことを嫌つたのも、コップより直下に水をのむ犬に對する嫌悪心を女教師の手前充分に發散することの出来なかつた結果である。又目が悪くなつたのも病父に自己の悲哀を知らせまいと努めた爲めである。然るにブロイエルの所で催眠状態に於て充分にその激情を再生することが出来たと同時に、凡ての疾患が一掃されてしまつた。勿論以前の経験を單に再生するだけでは不十分である。それに伴ふ情緒を十分に發展せしめて赤裸々の状態にするに非ざれば、決して病根は勦絶されない。即ちヒステリーの本質は、幽閉されたる情緒が異常なる變化をなしたといふ事實に基いて居る。而してその抑壓された情緒は一方には絶えず心的生活の障害の原因となり、他方には異常の身體的神経衝動と禁止とを生じ、その爲めに種々の身體的症狀を呈するのである。この第二の過程はヒステリーの轉化と名づけられて居る。正常の状態では吾人の精神的エネルギーの一部は身體的神经衝動となつて外部に傳はり、所謂情緒の表出を生ずる。所がヒス

テリーの轉化は情調を帶べる心的過程の方面を擴大する。そはかの強烈なる感情表出の際に、新規の出口を發見する場合と一致して居る。蓋し二つの路を通つて居る流が、若し一方の通路に或障害が起ると、他の通路に於て溢れるやうになるからである。

かやうにヒステリーは初めてその原因を情的過程に歸せられ、全く心理的原理を以つて説明せらるゝに至つた。次に又ブロイエルの觀察によりて、この症狀の特質として意識状態の變化が生ずることが明かになつた。即ち氏の患者は正常状態に於ては病源的經驗及び其と症狀との關係に就て少しも知らなかつた。催眠状態に入りて初めて病父の病床時代のことを再生し、その再生によりて病源を根絶することが出来た。ブロイエルは之を次の如く説明した。催眠術を研究して見ると、同じ個人の心に二種以上の精神状態の成立し得ることが分かる。而して其精神状態は比較的獨立して居て、互に相知らずに居る結果、意識に分裂を來すこと



がある。かゝる場合は二重人格と稱へられて居るが、それは往々自發的に發生することがある。而してこの人格分裂の場合に於て、意識は必ず二つの状態の中の孰れか一方と結び付いて居るもので、それを意識的精神状態と名づけ、他を無意識的精神状態と稱する。かの繼續暗示の現象に於て、催眠中に與へた命令が、覺醒後恰も命令的に暗示されたかの如くに實行せらるゝのは、無意識が意識に影響を及ぼして居る實例で、但し意識の方では無意識の存在を知らずに居るのである。ヒステリーの場合に現れる種々の事實も、之と同様に説明することが出来る。即ちヒステリーの症状も初めはかゝる特殊の精神状態に於て發生するもので、フロイエルは之に擬眠状態(Hypnoide Zustände)といふ名を與へて居る。この擬眠状態中に起つた情緒性の經驗は、容易に病源となる傾がある。蓋し此状態では興奮せる情緒を正常に排出することが出来ないからである。従つて興奮過程は特殊の結果即ち症状を惹起すやうになり、其が健康状態中に全く異つたものゝ如くに投げ込

まれる。従つてこの健康状態の方では、この擬眠状態に於ける病源的經驗に就ては全く何等の概念も無い。故に或症状が表はるゝ場合には記憶の空隙を生ずる。即ち健康の意識だけでは、其空隙を充たすことが出来ない。そこで忘れられた經驗を無意識界から喚び起して、その空隙を埋めると、其症状を起した事情も自然に取除かれるやうになると説明した。

フロイエルの此考は實に面白いが、フロイドによると不完全な所があるとせられる。ヒステリーの症状を研究すればする程、フロイエルの擬眠状態の説明には限度があつて、現象全部を説明し盡すことが出来ない。勿論最初から完全な原理を發見することは困難である。フロイエルの此考は氏の思索の子供に過ぎないもので、決して事實の偏見的攻撃に基いた結果で無いことは無論である。只フロイドから見ればフロイエルの考は不充分であるといふに過ぎない。併しこの擬眠状態以外に如何なる影響・如何なる過程が行はれつゝあるかのフロイドの考を述べ



る前に、フロイエルと同時に佛國巴里のサルベトリエール病院で研究をつづけて居たシャルコーの考と、ヒステリーの心理的過程を深く徹底的に研究したジャンネーの考とを紹介する必要がある。

フロイエルとフロイドとがヒステリーの淨下的療法より出立して、該症狀の心理的機制に就て意見を發表したる時に、シャルコーは他の方面より同様の事實を研究しつゝあつた。心的外傷に關する患者の經驗は、シャルコーの主張したヒステリー性麻痺に影響を及ぼす身體的外傷と相對應するものである。又フロイエルの擬眠状態の假設は、シャルコーが催眠術を用ひて人工的にこの外傷的麻痺を再生せしめた事實と相響應して居る。シャルコーの生徒であつたジャンネーはヒステリーの心理過程を深く研究し、人格の分裂並に轉換に關する精確なる研究を遂げた。ジャンネーは又當時佛國で流行して居た遺傳と變質との原理の上にヒステリーの理論を建設した。即ち氏によると、ヒステリーは神経系統の變質的變換の一形

式で、心的綜合作用が先天的に薄弱なるものであるとして居る。従つてヒステリー患者は最初から多様な心的過程を相關せしめ、綜合することが出来ない。爲めに心的分裂の傾向が生じてくる。今卑近な例を以てジャンネーの考を説明すると、ヒステリー患者は力の弱い婦人に比すべきである。その婦人が町に買物に行き、品物や受取證で両手が一杯になるまで買込み、今將に歸途に就かうとする。その時一つの品物が手から滑り落ちる。それを拾ひ上げると、他の手がゆるんで他の物が落ちるといふ有様に比較すべきである。

併しフロイドによると、かやうな精神薄弱を以てヒステリー全部の症狀を説明することは出来ないと言つて居る。一部が弱くなれば、一種の補償作用として、他の機能の増進を來たすものである。かのフロイエルの患者が一方に母國語を忘れた代りに、彼女の英語の能力は、獨逸語の本を一目見るや否や直ちに流暢に巧みに翻譯することが出来る位になつた。フロイドがフロイエルによりてより提唱



された研究をつゞくるに及び、意識分裂の原因に關する見解が、ジャーネーのそれと異なるを發見した。蓋しフロイドの出立點がジャーネーのやうに實驗室の研究でなく、救治法を目的とした爲であらう。又實際的療法に於ても、プロイエルは患者を催眠状態に導いた。蓋し前述の如く催眠状態では、患者の正常態では全く知られない病源的状态に歸ることが容易である爲めである。しかしフロイドは催眠状態に患者を導くことは全く奇異なことで、謂はゞ神秘的であるので、この方法が嫌ひになつた。殊に氏は努力しても時々患者を催眠状態に導くことが出来ないので、益々嫌になり、遂にこの方法を放棄してしまひ、淨下の療法を催眠術と全く獨立的に行ふに至つた。

かやうにフロイドは、氏の欲するまゝに屢々患者の精神状態を變化することが出来なかつたので、患者の正常態に於て何等かの治療を施さんと苦心し初めた。之は從來醫者も知らないし、患者も知らなかつた何物かを發見しようとするので、

最初の間は全く無意味且無目的の企てであるやうに見えた。種々苦心の結果、フロイドが嘗てナンシーに居た時に見たベルンハイムの治療法に思ひ當つた。ベルンハイムは患者を催眠的睡遊状態に導きて種々の經驗を興へ、その經驗したことを常態に回復した後でも記憶するやうにした。氏がその患者に睡遊中何事を經驗したかを尋ねると、最初は彼等は何も記憶しないと答へる。併し氏が必ず其を知つて居るに相違ないと固執し斷言すると、患者は何時もその忘れたと稱する經驗を想起することが出来たのである。フロイドはこの方法に倣つた。即ち患者に向つて種々の質問を試み、患者が最早何にも知らないといふ點に達すると、必ず知つて居るに相違ないと斷言し、是非言はなければならぬと主張する。且つフロイドが患者の前額に手を當てた瞬間に表はれてくる記憶は正當のものであるといふことを患者に向つて斷言し、以て患者の記憶再生を促した。かやうにして氏は催眠術を施すことなくして、忘れられたる病源的状态と、後に残された症状との關係を



構成するに必要な凡ての事項を患者より知ることが出来た。尤もこの方法は仲々面倒な仕事で、その手續も永くかゝり、實に根氣が盡きる位であるので、完全な方法といふことは出来ない。しかしフロイドはその得たる材料から確實なる結論を引出すまでは決して中止しなかつた。而して忘れられたる記憶は決して失はれるものでないといふ事實を確かめた。此等の記憶は常に患者の所有する所で、機會があれば何時でも外部に表はれんと用意して居る。併しそは他の心的内容と聯合し、且他の力によりて無理に抑壓されて意識下に潜在するを餘儀なくせられて居る。而してこの力が存在して居るといふことは確實に假定することが出来る。蓋しこの無意識的記憶をこの力に反抗して意識面に引き出すことを企つると、患者はその力に打勝つ爲めに努めた自己の努力の感を得るからである。又病的状態を維持して居た此力の觀念は患者の抵抗よりして明かにすることが出来た。

### 三、抑壓作用

フロイドはヒステリーの心的過程の原理の基礎を前に述べた抵抗の觀念に置いた。患者を救治するには、必ずこの力に打勝つやうにしなければならぬといふことが發見された。この治療の機制が出發點となつて確實なる原理が亦構成せらるゝに至つた。現時忘れられた觀念が意識に表はれてくることを妨げて居る抵抗力は亦病源的經驗を無意識界に押込めて之を忘却せしめた力と同一であるに相違ない。フロイドはこの假定的過程を抑壓作用 (Verdrängung) と名づけ、そは抵抗の存在によりて確かに證明せられると考へた。しかし茲に疑問となるのは、此等の力は抑何であるか、又この抑壓を生ずる條件は何であるかといふことである。淨下療法により治療された病源的状态を比較研究することによりて、此等の疑問は解決せられる。凡て此等の經驗から考へると、患者の精神中に一の願望が生ずる。その願望は個人的で他人の願望と相容れないもので、従つて患者の人格の倫理的・美的・私人的主張と一致することの出来ないものである。茲に於て兩者の間に争が



起り、その結果觀念の抑壓を生ずる。而してその觀念はこの相容れない願望の支持者として意識に表はれるが、願望そのものは抑壓されて全く忘られてしまふ。この觀念と患者の自我とが相容れないことが抑壓の動機となり、個人の倫理的又はその他の虚飾が抑壓する力となるのである。相容れない願望の存在、換言すれば争闘の繼續が強度の心的苦痛を生ずるやうになり、この苦痛は抑壓作用によりて免かれることが出来る。故にかゝる場合にはこの抑壓作用は人格保護の一考案たるや明かである。

この抑壓作用の條件と效用とを明にする爲めに、茲にフロイドの一患者の例を簡単に述べ必要がある。その患者といふのは若い婦人で、前に述べたブロイエルBrodyの例と同じく父親から非常に愛されて居たが、少し以前にその父が死んだ。その姉が結婚すると、どうした譯かその姉の夫に對し特殊の同情を生じ初め、遂には互に相親しくするやうになつた。患者と母とが他行して居る間にその姉は病氣に

罹つて死んだ。それでこの姉の家ではこの悲惨なる有様に就ては充分に知らせず、兎も角早く歸宅するやうにと患者母子に言つてやつた。その患者が歸つて来て、死んだ姉の枕元に立つた時に、「彼の人は今自由の身で、私と結婚することが出来る」といつた様な觀念がフイと心中に浮んだ。この觀念は明かに彼女が姉の夫に烈しき愛を有して居たことを裏切して居る。勿論彼女は今までその男を愛して居たとは意識して居ない。而して次の瞬間にはその觀念は不倫な心を起したものだとして抑壓されてしまつた。この女が烈しいヒステリーに犯されて、フロイドの治療を受けに来た時には、全く前述の光景を忘れ、不自然な利己的欲望を起したことも回想することが出来なかつた。所が治療を施す間に、此等全部の經驗が烈しき情的興奮を以て憶起され、遂に病氣が治つたといふことである。

この抑壓作用といふことはフロイドの學說の根本になるから、手近な例を取つてこの意義をもつと明瞭にする必要がある。今茲に私が講室に於て講演をして居



ると假定する。多勢の人は静かに私の講演に耳を傾けて居るのに、或一人があつて妙な笑をしたり、高聲を發したり、或は足摺りをする。それで私はかやうな噪しい所では到底講演を續けることが出来ないと言ふと、聴衆の中から或力強い者が二三人表はれて、その暴漢を取抑へて室外に引ずり出したとする。かやうにしてその男は今抑壓されて私は再び講義をつゞることが出来るのである。所がその暴漢は再び私の講演の妨害を試みん爲め室に入つて來ようとする。それで私の要求によりて戸の開かないやうに聴衆の一人が戸の側に行つて其の戸を確乎と抑えて居る。これが即ち抑壓を維持する爲めの抵抗といふのである。而してこの講室の内部が意識界、外部が無意識界に比較せらるゝ。かやうにフロイドの考を説明して來ると、ジャーネーの原理と大に相違して居ることが明白になつて來る。即ちジャーネーは、人格分裂を以て經驗を綜合する力の缺亡に歸して居るが、フロイドは之を動的に説明する。即ち相對立する精神力の闘争の結果であるとする。しか

し茲に反駁論が起り得る。フロイドのいふ如く闘争が分裂を引起すとせば、吾人の日常生活にては精神内部の闘争が常に起り、苦痛の情に對し自我を保護せんとする企ては隨所に生じて居るが、精神分裂を惹起すことはない。フロイドは之に對して、闘争によりて分裂を生ずる場合には、或他の條件が附加せられることを許さなければならぬ。しかしそは現時の知識では充分明瞭になつて居ないと答へて居る。

次にフロイドの救治法に關する考を、前述の講演の例を以て説明すると次の如くである。聴衆の一人が戸を抑へて暴漢の入り來るを防いで居るが、暴漢は中に入りたがつて遂に狂ひ出して、大聲を發し、拳を以て戸をどん／＼叩いて尙も妨害を試みるとする。その時或有力者が出て來て、その暴漢を説諭し、最早初の様な亂暴をしないといふ保證の下に室内につれてくるとする。かくしてその有力者の勢力の爲めにその暴漢も静まり、最早戸を抑へる必要も無く、聴衆は凡て静か



に講演を聞くことが出来る。この有力者の役目が即ち精神分析をなして治療を施す醫者の職分である。ヒステリーや精神病患者は、反抗する願望を充分に抑壓することが出来ず、之を無理に意識又は記憶の外に逐ひ出して、漸く精神的苦痛を免かれて居る。所がその願望は機會さへあれば意識内に闖入しようとする無意識界に潜んで待かまへて居る。故に茲に人ありてその抑壓を取り去つて、願望を解放せしめると自づから病氣も平癒するのである。

フロイドが精神病患者を研究した經驗の範圍によると、この無意識界に抑壓された願望は凡て性的衝動から構成されて居るといふことである。實に精神病の症状は性的衝動にその原動力を仰ぐ努力を代表して居ると言つてよい。凡ての精神病患者の模型と考へられるヒステリー患者の、その病に罹る以前の性格と、其病症の原因とを知悉する時には、如上の主張が正當であることが分る。ヒステリーの特性は、通常の限度以上に達した性慾抑壓の一部、即ち羞耻及び嫌惡として知られた

る性的衝動に對する抵抗力の擴大を明示する。粗雑な觀察でも往々ヒステリー患者に於て性慾が著しく發達して居ることを知ることがある。しかし精神分析を行ふと、此事實が常に明かになる計りでなく、烈しき性的欲求と擴大されたる性慾拒絶とが相對立して存在することの證明によりて、この矛盾に満ちた謎の如きヒステリーが解決せられる。若しヒステリーの素因を有する人が漸次成熟期に達するか、或は生活の外部條件の爲めに、眞の性的欲求と對抗するやうになると、直ちに其病症を惹起すものである。欲望の急迫と性慾拒絶の反抗との間に、一の遁路が出来る。この遁路は苦悶を除去するのではなく、淫慾的努力を症状に變形せしめて苦悶を洩らさうとするのである。假令ヒステリー患者が或他の情緒的故障を被り、其苦悶の中心が性慾に關係してないやうに見えても、其は單に外見的に過ぎない。蓋し無意識界に抑壓された觀念が意識に上つて來る場合には、往々變装した代表者を送るからして、抑壓觀念そのもの、真相を捉へることは困難である。



所が精神分析法はよくこの假面を剥ぎ取りて、苦悶の性的成分を剔出することが出来る。而してこの變裝作用は如何にして起るか、又如何なる風に行はるか、就ては第三章『夢の解釋』の時再び論ずることにし、次章に於てはフロイドが如何にしてヒステリー患者の精神分析を試みたか、又如何にして其病症を治療したかに就て述べよう。

## 第二章 分析的な精神療法

### 一、ヒステリー患者の治療

從來精神療法として多く用ゐられて居たのは所謂暗示療法であつた。即ち患者を催眠状態に導き、之に暗示を與へてその病根を絶たうとするのである。所がこの暗示が種々の妨害的要素の爲めに甘く利かないことが往々ある。それでフロイドは前に述べた様に談話療法なるものを發見した。即ち病根となつて居る情的经验を充分に發表せしめて之を救治するといふ、所謂淨下法を用ひた。フロイドもこの方法に倣つて偉大な効果を見た。しかしその病源的经验を搜るにフロイドは催眠術を用ゐたが、フロイドはこの催眠術を用ゐることは凡ての患者に應用し難いことを看做し、かのベルンハイムの方法を參考として、遂に患者を覺醒状態に置きながら、その病源的经验を検索し之を救治することを發見した。之が氏



の所謂分析的療法である。その方法は極めて簡単であるだけ、又中々の技倆と忍耐とを要する。今その方法を明にする爲めに、フロイドが精神分析法を行つてヒステリー患者を救治した二三の實例を紹介しよう。

氏の方法は至つて簡単である。靜かに椅子に腰かけさせ、或は仰向に寝させて後、例へば「何時頃からこの症状が現はれたか」とか、或は「何處からこの症状は來るか」といふやうな問を發する。患者はこの時多く「知りません」と答へる。それで氏は患者の前額部に手を當て、或は兩手の間に患者の手を挟みながら、「私が手を壓すと其事柄があなたの心の中に表はれて來ます」と言ふのである。氏が暫時壓した後それを止めて、「どんなものがあなたの目の前に表はれてきましたか」とか、「何かあなたの氣付くやうな事柄を思浮べたでせう」と尋ねる。しかし或點まで行くと患者は又「何にも見えませぬ」とか、「何にも心に浮びません」といふやうになる。さうすると氏は又前の方法を繰返した。甚だしい時は三四回頭を押

すことがあるといふことである。さうすると患者は漸く「さうです最初その事に氣付きましたが、しかしそれを御話したくなかつたのです」とか、「どうかこんなことがないやうにと望んで居ます」などと言つて、遂に白狀するに至るものがある。氏は即ち患者は病源的意義を有する孰れの事項をも知つて居ると言ふ假定に基いて患者の答を要求するのである。かくして氏は患者を睡遊状態に導くことなくして、氏の欲する凡ての病源的材料を得ることが出來たといふことである。

氏は嘗て諸種の苦悶例へば臨場苦悶・死に對する恐怖等を有する三十八歳の婦人患者の分析を試みた。この種の患者に多く見られるやうに、彼女もこの病氣が結婚して後に起つたといふことを拒み、ずつと若い時からこの病に罹つて居たと言つた。即ち彼女は十七歳の時彼女の生れた小さい町の街道で初めて眩暈・苦悶・失神を起し、二三年前今の病氣になるまでは時々如上の發作が去來したと言つた。フロイドはこの最初の眩暈がヒステリー性で、之を分析する必要があると考へた。



彼女の知つて居る所は只その町の大通りの所で買物をしようと思つた時に初めて眩暈が起つたといふことだけである。「何を買はうと思ひましたか」とフロイドは尋ねた。「いろんな物——舞踏會に招かれたので其準備をする爲めの物と思ひます」と患者は答へた。「何時その舞踏會はありましたか」「二日後だつたと思ひます」「舞踏會の二三日前に何かあなたを興奮させる事があつて、それが深い印象を残したに相違ありませんね」「いえ私は何にも知りません、何にしる二十一年以前のことですから」「年數なんかはどうでもいゝですが、あなたはその事を思ひ出すでせう、私が暫らくあなたの頭を手で壓しますから、それを止めた後あなたは何かを見或は考へるでせう。それを私に言つて下さい」。フロイドは手を彼女の頭の處に當て、壓したが彼女は黙つて居た。「何にも心に浮びませんか」「私は何か考へて居ました。しかしそれはこの事と丸で關係のないことでした」「いや一寸それを言つて御覽なさい」「私は死んだ若い娘のことを考へて居ました。その女は私が十八

の時即ち一年後に死にました」「その事に就て少し吾々は御話させよう。あなたのお友達はどうしたんですか」「その女は最も親しい友達でしたから、その女の死んだことが非常に私の心を動かししました。町内で評判の若い娘が又二三週間前に死んだ。丁度その時私は十七歳でした」「そら御覽なさい、私があなたの頭を押したので、手がゝりになる考が浮んできたでせう。それであなたは初め街道で眩暈を感じた時に何と考へて居たかを言ふことが出来ますか」「何にも考へて居ませんでした。だゝ眩暈がしただけです」「それは不可能です。かやうな病氣は必ず何かの思想に伴つて起るものです。も一度あなたの頭を押へませう。さうすると考へ出させませう。さあどんなことが心に浮んできましたか」「あゝ私が三番目だといふことが心に浮びました」「それは一體何といふ意味ですか」「私が眩暈を起した時に、私も他の二人のやうに死にはしないかと考へたに相違ありませんね」「なる程發作の時にあなたの友人のことを考へましたね。その友人の死が非常な印象をあなたに



與へたに相違ありませんね」「はい全くです。私は友人が死んで居るのに舞踏會に行かなければならぬかと思つて非常に恐ろしく感じました。しかし舞踏會の面白さを思つたり、又招待されて居ると思つたりすると、こんな悲しい友人の死などの事に就て考へたくないと思ひました」。

かくして發作の原因が大分説明せられた。しかしこの觀念を生じた際の四圍の事情を知る必要がある。フロイドは偶然にもこれに就て旨い想像を畫いた。「あなたはその時どちらの通りを歩いて居たか覚えて居ますか」「確に古い家のある大通りだつたと思ひます。今その通りが目に見えます」「あなたの友人はどこに住んで居ましたか」「同じ通りです。私は丁度その家の前を通りました。通つた後二軒目位の所で發作が起りました」「そんならその家の處を通つてあなたの死んだ朋友のことを思出し、又之に對してこんな事は考へたくないと思ひましたね」。しかしフロイドはまだこれにて満足しなかつた。かやうに常態であつた婦人をヒステリーに

した原因がこの外にあるに相違ないと考へた。即ち月經時と關係をして居ないかと想像して氏は次のやうに尋ねた。「あなたは通常毎月何日頃月經がありますか」茲に於て彼女は少しく怒つて、「あなたはそんなことまで聞かうとするのですか。私は月經が極めて稀で且不規則であつただけを知つて居ます。十七歳の時は只一度だけでした」「そんならその月經のあつた時を知る様に日と月とを數へて見ませう」。月ははつきり答へたが、日は多少曖昧で、例祭日の前日か或はその前々日であつたと答へた。「その祭日と舞踏會の日とは餘程違つて居ましたか」。彼女は靜かに答へて曰く「舞踏會は丁度その祭日の日でした、今思ひ出しましたが、一年にたゞ一度あつた月經が、丁度舞踏會に行かなければならぬ時に初まつたといふので非常に私は感動しました。殊にその舞踏會へは初めて招待されましたので」。茲に於て事件の聯絡が全く明白になり、ヒステリー發作の機制が分かつてきた。二十一年前の記憶を喚び起すやうにしたフロイドの手際と苦心とは非常なも



のであると言はなければならない。而してこの古い記憶即ち心的外傷が喚起されてその血路を見出したと同時に、此患者のヒステリーは全癒せられたといふことである。吾人は次に他の實例に就て氏の方法を紹介しよう。

## 二、R嬢の回復

千八百九十二年に同業者の一人がフロイドに一婦人R嬢を診察して貰ひたいと言つて來た。その同業者の一人はその婦人を慢性の化膿的鼻加答兒と診断し、後には節骨潰瘍と診断してその療治を行つた。處が最近になつて如上の局部的障害でない一新症狀に悩まされた。即ち彼女は匂に關する凡ての知覺を失ひ、只二三の主觀的匂ひの爲めに絶えず悩まされて居る。その爲めに彼女の精神も憂鬱となり、頭も重く、食慾も減退し、何にも仕事をする元氣がないとこぼして居る。この婦人の身元を尋ねると、ギンナ市の郊外にある工場監督の家庭教師で、身體はどつちかといふと瘦せた方で貧血であるが、しかし鼻の病氣以外には健康であつた。

彼女の最初の話は前の醫者にかゝつた時のことで、氣がふさいで、身體がだるく、主觀的嗅覺で困つて居るといふことである。ヒステリー性症狀としては一般に痛覺が喪失して居ること、視野の狹窄は表はれなかつた。鼻粘膜は全く痛覺喪失し、無反射の有様である。嗅覺もアンモニヤや醋酸性の特殊の匂ひに對して全く失はれて居る。但し化膿性鼻加答兒は餘程よくなつて居た。

この症狀を理解するに當つて、先第一に匂の主觀的感覺はヒステリーの症狀を示す回歸的幻覺と考ふより外は無かつた。憂鬱は心的外傷に屬する情緒で、現在の主觀的匂ひが客觀的に存在した時の出來事があつたに相違ない。この出來事がその心的外傷となつたに相違なく、その外傷の表號が即ち嗅覺として記憶中に去來するに相違ない。寧ろこの憂鬱状態を伴ふ匂ひの幻覺がヒステリー發作と同一物であると考へた方が適當かも知れない。而してこの主觀的匂ひはその初め或一定の實在的對象であつたらうと聯想せらる程特殊の發達をなして居る。然るに此



豫想は全く適中した。即ちどんな匂に苦しめられるかと尋ねたら、彼女は饅頭の皮の焦げる様な匂ひだと答へた。それでフロイドはこの焦げる匂ひがこの外傷的出来事の中に實際に起つたと推定した。嗅覚が心的外傷の表號となることは極めて稀有のことではあるが、彼女は化膿性鼻加答兒であるので、鼻及びその感覚が彼女の注意の焦點となり、従つて記憶的表號に嗅覚を選んだのは無理もないことであらう。この患者の経歴に就てフロイドの知つてゐる所は、只二三年前急に死んだ婦人の二人の遺子の面倒を見て居たといふことだけであつた。

茲に於てフロイドはこの饅頭の焦げる匂いを精神分析の出發點としようと決心した。氏は最初この患者を催眠状態に導かうとしたが、睡遊状態まで引入れることが出来ず、遂に之を中止して殆ど常態と等しき状態に於て分析を初めた。彼女はこの時目をつぶつて手足を少しも動かさずに居た。フロイドは彼女に向つて「どんな場合にこの焦げる匂ひを初めて感じたか覚えて居ますか」と尋ねた。彼女は

答へて曰く「はいよく存じて居ます。其は約二ヶ月以前で私の誕生日の二日前でした。私は二人の女生徒と教室で遊びながら料理を教へて居た時に、配達夫が持つて來た手紙を受取つた。その手紙の消印と書體とから直ちにグラスゴー市の母から來たのだと知り、其を開いて讀みたいと思つた。その時一人の生徒が走つて來て其の手紙を取り去り、「今讀んぢやいけません、それは多分誕生日の祝ひの手紙でせうから、誕生日までそのまゝなさいよ」と云つた。生徒等が遊んで居た時に不意に烈しい匂ひがして來た。そは彼等が料理をして居た饅頭を焼き放しにして、忘れて居た爲めに焦げたのです。それ以來私はこの匂ひに悩まされて居ます。何時もこの匂ひが表はれて來ますけれど、興奮した時が殊に著しく表はれて來ます」。

「その光景が目の前にはつきり見えますか」「はい私が経験した時と寸分違はない位はつきりと見えます」その時何がそんなにあなたを感動させましたか「子供が



私に對して非常に親切であるといふことで、「しかし何時もそんなに親切ですか」  
「はいしかし丁度私の母から手紙が來ました」「子供の親切と母からの手紙とがど  
うして相對立して考へられたか私には分りませんが」「それはかうです、私は母の  
所に歸らうといふ考がありました。そして此の可愛い子供達を残して行かなけれ  
ばならぬと思ふと氣が鬱いで來ました」「あなたのお母さんはどうしたんですか、  
あなたに歸つて貰ひたい程淋しいのですか、それとも病氣であつて何とか音信が  
ないかと豫期して居たのですか」「いえ母は弱いたちですけれど病氣ではありませ  
んでした。又友達も持つて居ります」「そんならどうしてあなたは子供を残して歸  
らなければならぬのですか」「この家に居ることが私に堪へきれなくなりました。  
主婦・料理人・佛人の女中などが私が餘り高慢過ぎると思ふやうです。彼等は一致  
して私に對し何事かを目論見、子供の祖父に私の事に就て陰口をしました。それ  
で私はその事に就て二人の紳士に訴へましたけれど私の豫期した保護を得ません

でした。それで私は主人即ち子供の父に暇を貰ひたいと言ひましたら、その主人  
は大變親切な人で、私に最後の決定をする前に二週間計り再考したらよからうと  
言ひました。前に述べた事件は丁度私がまだ決心しない時に起りました。あとに  
氣は残りましたけれど遂にその家を去らうと決心しました。「子供に氣が引かれる  
以外に何か特別に心残りのすることがありませんか」「はいあります、子供の母は  
私の母の縁類に當りますので、子供の母が病氣で死なうとする際、私は眞の母に  
なり代つて全力を盡して子供を養育してやらうと約束しました。所が今此家を去  
るとその約束を破ることになります」。

茲に於て主觀的嗅覺の分析は完了したやうに見ゆる。その匂ひは嘗ては客觀的  
に存在し、其が一の經驗と密接に聯合するに至つた。而して其經驗は二つの相反  
する心情即ち子供を置去りにする悲しみと之を抑制して其家を去らうとする決心  
との争闘である。母よりの手紙はこの決心の動機を再生せしめたのは自然である。



而して此等の争闘が昂じて遂に心的外傷となり、その匂ひはその外傷の表號となつて残つたに相違ない。この外傷的經驗の際には幾多の感官知覺があつたに相違ないのに、何故に特にこの嗅覺がその表號となつたのであるか。そは彼女が慢性的鼻疾によると説明するより外にないやうである。殊に彼女の話によるとその際烈しい鼻感冒に犯されて居て、饅頭の焦げる匂ひの外何にも嗅ぐことの出来なかつたといふことである。この説明は至極尤もであるやうに見ゆるが、フロイドはこれでもうも満足が出来ず、なにか其處に足りない所があるやうに思へた。この情緒の争闘と、興奮的刺戟とが何故にしかくヒステリーを引起したか。何故に此等は凡て通常の心理的基礎を作るに止まらなかつたか。何故に彼女はその經驗の表號として匂ひを再生して、經驗そのものを再生しないかといふのがフロイドの腑に落ちなかつた疑問であつた。

蓋しかやうな數多の症狀を分析した經驗のあるフロイドは既に或事件の表現が

故意に意識下に抑壓せられて、聯合的同化以外に放逐せられて居ることを知つて居るからである。かやうに故意に抑壓せられると、その興奮の一部又は全部は他の形を取るやうになる。而して往々正常の道を通らず身體的神経力の方に其活路を發見するやうになる。この抑壓を生ずる理由は不愉快なる感情、即ちその抑壓される觀念と支配者たる自我との不兩立に基づくのである。而してこの抑壓觀念は病源となりてその抑壓された腹癒やせをする。フロイドはこの患者にも之と同じく故意に忘れようとして苦んだことがあるに相違ない。而してそれが彼女の病源となつて居るに相違ないと推測した。殊に彼女が子供に對する執着心と、其の家に居る他の召使に對する敏感とを考へて見ると、何か外に病源となるべき事件があるに相違ないとフロイドは大膽なる解釋を敢てした。即ち氏は此等の凡ての事件が單に子供に對する愛情にのみ基づくとは思へない。或はその主人を愛して居たのではなからうか。又母の位置を占めたいと思つたのではなからうか。勿論そ



れは覺えず知らざる中に起つた事であらう。而してこの主人に對する愛よりして、數年間平和に暮して居た家の召使に對し敏感となつたのではあるまいか。しかし彼女はこの望みを氣付かれはしまいか又は嘲笑を受けはしまいかと恐れたに相違ないと考へ、氏は大膽に彼女にその旨を尋ねて見た。所が彼女は極簡単に「はいさうだと思ひます」と答へた。「主人を愛して居たと知つて居て、どうして其を私にお話になりませんでしたか」「私はそれを知りませんでした。いや寧ろ其を知らうと望みませんでした。私はこの事を私の心から逐出して、少しもその事に就て考へまいと望みましたが、遂に望み通りに忘れて仕舞ました」「なぜあなたはそれを考へることを好みませんでしたか。あなたが一人の男子を愛することを耻しいと思つたのですか」「いえ私は理由なしに淑女ぶるのではありませぬ。又人は自己の感情に對して確かに責任はありませぬ。只私が苦しんだのは、その愛する人が私を使用して居る傭主であり、又私はその家に住んで居るので、その人に對して

は他の人に對する程不覇獨立に感ずることが出来ませんでした。これよりも尙一層苦にしたことは、私は貧しい女であるのに、彼人は有名な家柄に生れた資産家です。それで若し私があの人を愛してゐるなど、氣づかれでもしたらば、私は嘲笑の的となりましたでせう」。

この後フロイドはその愛情の起りに就て充分細かに聞くことが出来た。彼女の談によると、その家に傭はれて來た最初の一年は何事も無く過した。この實現し難い望に就て少しも考ふることなく彼女の義務を果した。しかし或日眞面目で、忙がしく且極めて控目な主人が、子供を育てることの困難に就て彼女と話を交へた。話を進める間に主人は平常よりも優しく懇ろになりて、孤兒の養育に對して彼女に如何に多くを期待して居るかを告げ、稍異様な目つきで彼女を見た。この瞬間に彼女はその主人を戀し初めて、その後は會話の際に氣付いた喜ばしき希望に満たされて居た。しかしその後何にも起らず、彼女の期待に拘はらず、心と心



と話を交はすやうなことなく、爲めに彼女はこの事を彼女の心から逐ひやらうと決心した。而して前記の異様な目つきは恐らく死んだ妻の記憶の爲になされたのであらうといふことはフロイドと一致した意見であつた。かやうにして彼女は此の愛が全く望みのないことを確信した。

この會話の後フロイドは彼女の状態に確然たる變化を豫期したが、その當座は何等の變化も起らなかつた。彼女は相變らず憂鬱状態を持續し、フロイドが水治法を命じて朝の間多少快活になつた。饅頭の焦げた匂ひは大分弱くなり且つ稀になつたが、全く消失するに至らず、精神が興奮する時には何時も現はれて來た。かやうに何時までも記憶表號が繼續して居ることからして、フロイドは、此の主要なる光景以外に尙多くの技業的外傷があるに相違ないと考へ、兎に角その焦げる匂ひと聯關した居さうなあらゆる事實を搜索した。かくして彼女が家内の不和に關すること、祖父その他の人々の行動に就て氏と話をするに至つて、漸次に焦

げる匂ひの感覺がなくなつて來た。彼女が歸宅してからフロイドに手紙を送つて、彼女は兩人の紳士並に傭人等から彼女を慰藉する爲めに、多くのクリスマス贈物を貰つたことや、先月の苦しい思ひ出は悉くとれて仕舞つたことなどを報じて來た。

その後フロイドはかの焦げる匂ひに就て彼女に尋ねた所が、その匂ひは全く消失したけれど、又新しい他の匂ひ、云はゞシガターの煙のやうな匂ひに苦しめられて居ると言つて來た。この匂ひは以前存在して居たに相違ない。唯焦げる匂ひの爲めに蔽はれて居たが、その匂ひが取れたので今現はれて來たのであらうとフロイドは考へ、自己の療法があまり成功しなかつたことを大に不快に感じた。蓋し症状の療法のみを行ふと、一の症状が除去されても、それは單に他の症状の餘地を作るのみであると非難せらるゝが、氏のこの度の治療は亦之に類して居るからである。しかし氏は直ちに又精神分析を行つてこの新しい記憶表號を除去しようとした。



この時氏はこの主観的匂ひがどうして起つたか、又どんな重大な場合にそれが客観的に存在したかを知つて居なかつたことは無論である。

種々と尋ねた結果氏は次のやうな答を得た。「彼等は絶えず家で煙草を飲みます。私が感ずる匂ひが或特殊の意義を有するか否かを知りませぬ」と。それで氏は手で頭を抑へて居る間に其事件を回想するやうにと彼女に求めた。既に明かなるが如く彼女の回想は成形的で、視覺型に屬して居る。フロイドの手の壓の爲めに心像が斷片的に徐々と現はれて來た。或日紳士が食事の爲めに工場より歸つてくるのを子供等と共に食堂に待つて居た。「今吾々は凡て食卓に就て居ます。紳士も、佛蘭西の女中も主婦も子供も私も一處に。それはいつもの通りです」。「一寸その心像をつゞけて眺めて居らつしやい。それはすぐに發達して一々細かく見えませう」。「はいそこにも客が一人居ます。それは會計長で、眞實の祖父のやうに子供を可愛がつてくれる老紳士です。よく吾々と一處に食事をするので、別に不思議

の來客と思ひませぬ」。「も少し辛抱なさい。そしてその心像を見て居らつしやい。何か慥かに起つてくるでせう」。「何事も起りませぬ。吾々は食卓を去り、子供もそこを離れて、いつもの通りに第二階に登りて行きます」。「さうですか」。「そこに實際不思議なものがあります。今私は其光景が分かりました。子供が食卓を去らうとする時、其會計長に接吻をしようとした所が、私の主人が飛び上つて會計長に向つて「子供を接吻して下さるな」と叫びました。その時私は針でちくりとさされるやうに感じました。その紳士は煙草を飲んで居たので、その匂ひが未だ記憶に残つて居ます」。

此が外傷を生じ記憶表號を残した第二の根柢深き光景であつた。しかし何故にこの光景がしかく印象深いのであるか。それでフロイドはこの光景と前に述べた焦げる匂を生じた光景と何れが先きであつたかを尋ねた。「この光景が約二ヶ月ばかり先きに起りました」。「あなたは何故に主人の干渉をさう烈しく感じたのです



か。なにもあなたを面責した譯でもないのに。「親友であり且つ來客である老紳士をこんな風に面責するのは善くありません。もつと靜かに言ふ仕方もありますのに。」そんならあなたは主人の性急の爲めにそんなに感動したのですか。その行爲が紳士として愧づべき行爲であると考へた爲ですが、或は又かやうな些細な事位に老紳士を責める程亂暴な人と若し結婚したならば、妻たるあなたをどんなに取扱ふであらうかと考へた爲ですか。「いーえさうでありません。」そんなら單に主人の性急な行爲の爲めですか。「其は子供を接吻することに就ては。主人は子供を接吻することを好みませぬ。」かくしてフロイドの手壓の爲めに、眞の病源となつた昔の光景が漸次に展開されて來た。

この事件より二三ヶ月以前に婦人の朋友がその家を訪ねて來て、歸る時に子供の唇を接吻した。子供の父は其處に居たが、此時は我慢して何事をも言はなかつた。その婦人が歸つた後で、主人は大變に彼女に向つて怒り、此接吻に對しては

女傳たる彼女の責任であると言ひ、こんな事を黙過しないのが彼女の義務であると責め、若し再びかやうな事があれば子供の教育を他の人に依托しなければならぬと告げた。この事件は彼女が主人から愛されて居ると信じ、再び親しい會話があるだらうと期待して居た時に起つた。この出來事が彼女の希望を全く破壊してしまつた。この時彼女は「若し主人がかやうな細事の爲めに全く無辜である私を非難し威嚇することが出來るとすれば、主人が私に對して親切な心を持つて居ると思つたのは私の誤りであつたに相違ない。若し私を愛して居たとすればもつと親切でなければならぬ」と考へた。その後主人が子供の接吻のことで老紳士を面責した時に、この苦しい光景が再び彼女の心に現出したことは當然である。

フロイドがこの最後の分析を行つてから二日目に彼女は氏を訪問した。彼女の容貌は全く一變して、微笑を含み、頭も高く上げて居た。それで氏はその瞬間に彼女の事情をこれまで誤つて解したかも知れない。恐らく子供の女傳は今や主人



の花嫁となつたのではなからうかと考へ、何か愉快なことでも起つたのですかと彼女に尋ねた。しかし氏の想像は全く當らなかつた。即ち彼女は「何にも新らしい事は起りませんでした。あなたは私が病氣で憂鬱であつた時常に私を見て居ましたから、今の私をあなたは知らないのです。今私は愉快です。昨朝目を覺ました時に私の重荷がすっかり下りて、其以後は非常にいゝ氣持です」。「あの結婚の機會に就ては何と考へますか」。「その事は今全く明了になりました。私はその機會が全く無いことを知つて居ます。又そのことで私を不幸にしようとも思つて居ませぬ」。「家の内の他の人々と仲好く暮して行けると思ひますか」。「行けると思ひます。面倒の起りは凡て私の神經過敏の爲でしたから」。「あなたは尙主人を愛しますか」。「はい愛します。しかしそれが何にも私を煩はすことはありません。人は自分の欲する通りに考へることも又感ずることも出来ずから」。

此時氏は彼女の鼻を診察したが、痛覺と反射作用とが殆んど完全に回復され、

又匂ひを區別することも出来た。但しその匂ひが餘り強い時は判別が不確實であつたといふことである。この全き治療に九週間以上をも費したが、その後四ヶ月餘りたつてから、フロイドは氏の避暑地で彼女に不圖出會つた。其時彼女は快活で、相變らず健康も勝れて居ると告げたといふことである。

從來述べ來つた二個の實例は何れも軽いヒステリー患者の場合であつたことは勿論である。しかし其病氣の簡單なるに拘はらず、その中には多數の心的決定要素を含み、その發達變化の跡を知るに非常の苦心と努力とを要する。従つて複雑なるヒステリーの場合の分析の困難は推して知るべきである。しかしそのヒステリーを引起す條件に至つては同様である。即ち自我と、それに近づいて來る或表象との間に不兩立が起る。爲めに自我はその苦痛に堪へ兼ねてその軋轢を免かれようと努める。しかしその反抗する表象を絶滅することが出来ず、其を單に無意識界に押込めるに過ぎない。この過程が自我より離れた新しい精神群を形成する



に至る最初の道程で、この押込められた表象が其群の核となるのである。而して後に得られた症状が以前の症状を蔽つてしまふから、後の症状を除去しなければ、最初に得られた症状、即ち其全病症の鍵を知ることが出来ない。かくして其分析が最後の鍵に到達した時初めてその病氣が突然と全治する。蓋し其は分裂したる精神群を無意識界に押込めて置くには非常な努力を要し従つて不愉快なものでそれが又種々の身體的症状となるのであるが、その精神群を自由に意識界に持ち來つて自我と結びつけると、凡ての抵抗は除去せられ、不快の感の無くなると共に凡ての症状をも消失するのである。之を又他の方面から解釋すると分裂精神殊に情緒などが無意識界にある間は絶えず氣まゝな働をして害をなすものであるが、一度それが意識界に入り來つて自我意識と結合するに至れば、吾人の最高精神活動の支配を受くる様になり、従つて吾人は之を自由に統御し得るやうになるのである。

### 三、分析的療法の範圍

この分析的療法によつて凡ての精神病が全癒せらるゝといふことが出来ないことは勿論である。フロイドは自分が取扱つた經驗よりして此療法の限度に就て次の四項を擧げて居る。(一)この療法を施すには、其患者に一定度の教育があり、性格も多少信賴し得る程度のものでなければならぬ。従つて神経病的變質の療法には不適當である。又自分の病氣の苦みから又は親近者の勧めによりて、この療法を受けようと望む人でなければその効果がない。之を要するに分析的療法法の効果を示すには被教化性に由らなければならぬ。(二)精神病・混亂状態・著しき憂鬱等はこの分析に不適當である。但し適當に手續を變更することによりて此等の禁忌徴候を看過することが出来るであらう。かくすると精神病に對する精神療法も可能となる譯である。(三)患者の年齢が此の分析に重大なる關係を有して居る。五十歳近く又は夫以上の人は一方に其精神過程は可塑性、即ち被教化性に缺けて居るから此療法に適當しない。又他方にかゝる老年の人は多くの經驗を有



するからして、その一々の材料を抽出して之を治療するに多くの時日を要する。故に青年期の人或はそれ以前の人がこの療法に最も適當せる患者である。(四)ヒステリーの食慾欠亡の如き、急速に之を除去せざるべからざる症状に對して此療法を行つてはならぬ。

かやうに制限的方面のみを列挙してくと、分析的治療法の應用は極めて其範圍が狭いやうに思はれる。しかし尙應用の餘地は充分ある。例へば殘滓的表現を有する凡ての慢性ヒステリー、強迫觀念に襲はるゝ凡ての症状、意識欠亡等にはこの療法を試みる事が出来る。但し此等の症状に對しても合理的に此療法を行はなければ害を及ぼすことがある。フロイドは或醫者が此分析的療法の濫用をなした例を擧げて、この療法の科學的原理と技術的順序とを熟知せざる人が、この方法を取扱ふことの危険を述べて居る。そは一婦人がフロイドの所に來つて、どうしても一醫師の忠告に従ふことが出来ないと訴へて來た話である。其醫師の忠

告といふのは、彼女の病症は性的需要の不満足に基づいて居るからして、離婚した男の所に歸る方がいゝといふのであるが、此會談の後彼女の苦悶の感が却つて烈しくなつたといふことである。

フロイドは此醫師の分析的療法の濫用を悲しみながら、此場合に二個の誤謬があることを指摘して居る。第一は性慾といふ語を餘り狭義に解して居る。これを只に身體的性慾に限るのは誤りで、凡ての心的方面即ち親切・同情・愛情等の念をも包含するのである。従つて心的不満足が必ずしも身體的性慾の不満足を伴ふものでない。而してこの心的性慾の不満足は之を満足する爲めに往々代表者を創造するもので、身體的性慾に耽けることが、其不満足を醫するといふ譯のもてない。故に身體的に限られた性慾の語を以て分析的治療法の原理に適用するのは大なる誤謬である。此醫師の第二の誤解は性的不満足が神經的疾患の原因であるかと考へたことである。疾患の原因は決して不満足の爲めでない。性慾的衝動



と其を抑壓せんとする努力との間の争闘が其原因をなして居る。又苦悶を示す凡ての症状は凡て苦悶的神経病であるとし、其は又性慾的治療にて救治し得ると考ふるのは誤謬である。苦悶的神経病の症状を精しく知ることが必要で、其が他の病的條件より起つたか否かを確めずして療法を施すことが實に危険千萬であることはいふまでもない、とフロイドは述べて居る。尤も氏はヒステリーも苦悶的神経病もその病源的經驗に於て性の分子があるといふことを強調的に主張するは前章の終りに述べた所である。従つて往々前述の如き誤謬を生ずるは免かれ難いことであらう。氏が如何にその汎性慾説を主張するかに就ては後章に至りて明かにする積りである。

### 第三章 夢の解釋

#### 一、夢の解釋法

夢に關する從來の説明によると、夢を構成して居る精神作用は、直接先行する精神作用なくして生ずるもので、睡眠中に行はるゝ生理作用によつて、腦皮質の各要素が不規則に興奮された結果である。それで夢に現はれる精神作用は混雜して荒唐無稽のものであるとせられた。又夢の中に或程度まで論理的聯絡があるのは、解剖上又は生理上、相當に密接の關係を有して居る皮質要素が、周邊部の刺激の爲めに同時に興奮される爲めであると考えられて居る。随つて此等の見解よりすると、夢の心理的起源などは全く問題にならない。夢全體の意味の如きも、當然存在しないものと見做されて居る。所がフロイドによると、夢の作用には、他の精神作用と同じく心理的の歴史がある。夢には特別の性質があるけれども、



尙精神作用の起伏中に相當の地位を占めて居るから、他の精神作用と同様、その起源を心理學上から精確に探求して行くことが出來ると主張するのである。

夢を解釋するに當つてフロイドは前に述べた精神分析法を用ひた。勿論夢の解釋なるものは氏以前に行はれて居る。例へば夢の象徴的解釋法 (Symbolische Traumdeutung) に於ては、夢の内容を全體として取扱ふのである。換言すればその内容を他の理解し易く且つ或點に於て類似せる内容によりて置換へる。而してその置換へる事項は凡て將來に關係するものゝみである。聖書にヨゼフがファラオの夢を解釋した如きはこの適例である。即ちその夢といふのは七頭の肥えた牝牛の後に七頭の瘦せた牝牛が來て、後の七頭が前の七頭を食ひ盡したといふ夢である。この七頭の瘦牛はエヂプトに七年間饑饉の來ることを豫言するもので、七頭の肥牛はその饑饉以前七年間は五穀が豐熟したことの象徴である。この他俗に行はるゝ夢の解釋法には、暗號法 (Chiffirmethode) と云ふものがある。これによ

ると夢は一種の暗號で、その一々の暗號を、夫々相當する他の意味ある言葉に翻譯するのである。それには手引がありて、例へば手紙の夢を見ると、手引には苦腦と解してある。又葬式の夢は許嫁と譯してある。而してこの苦腦とか許嫁とかの解答を以て、今將に行らんとする事實に當嵌めて將來を卜するのである。この方法は前の象徴法と異つて夢の内容全部を取つて解釋するのでなく、その一部一部を取つて解釋するもので、夢を以て恰も各種の石塊よりなり立つ巒岩のやうに考へて居る。

併し此等の通俗的解釋法は共に其適用に限度がある計りでなく、その解釋法が非科學的であるので、哲學者や心理學者は此等の夢判斷を以て、想像上の所産とか迷信に過ぎないとか言つて、之を排斥してしまつた。所がフロイドは夢には必ず意味がある。而して之を科學的に解釋することが出來ると主張し、先づその一例として、氏自身の夢を分析して居る。その方法は前記の象徴的解釋法よりも寧ろ



暗號法に近い。蓋し氏によると、夢は精神的結晶體で、之を解釋するには一片一片に分析しなければならぬと考ふるからである。氏自身の夢の内容を記載する前に、その當時の四圍の状況を述ぶる必要がある。

千八百九十五年の夏フロイドは若い一婦人の精神分析を行つた。その婦人は以前より氏並に氏の家族と極めて心易い間柄であつた。しかし人のよく知る如く、かやうな親密の關係のあることが、醫者特に精神療法をなす醫者に色々の煩ひを引起す原因となるものである。醫師の個人的興味が強くなるに従つて、益その權威は減じてくるのである。若しも治療が成功しなかつたならば、その親密關係を破りはしないかと思はれた。尤も患者に對する治療は一部分効果を收めた。即ち患者のヒステリー性不安だけは治つた。しかしその身體的症狀はまだ去らない。氏はこの時その患者のヒステリーの歴史の最後の部分が充分に腑に落ちないので、患者の嫌ふのにも拘はらず、無理にその部分を打明けけるやうに求めた。所が夏にな

つて患者は田舎にゆくやうになり、治療もそのまゝに中止してしまつた。或日氏の親友である一醫師が訪ねて來た。その男は患者(名はイルマ)とその家族を訪問して來たので、氏はイルマはどうして居ると尋ねた處が、その男は「ずつと善くはなつたが全快とまでは行かない」と答へた。この友人オットーの話或はその音調が烈しく氏の不興を招いだ。即ち氏は患者に對して餘まり約束し過ぎたと非難されるやうに思はれ、且つオットーが氏に背いて患者の味方をするのが、氏の治療を喜んで居ないやうに見えた。患者との友情關係までも影響はしないかといふ考が心に浮んで來た。而してこれ以外には氏の心を苦しめることはないやうであつた。しかし氏はその苦痛を少しも友人の前に表はさなかつた。その夜氏は醫者仲間で人格の最優れたM氏にイルマを托さうと思つて、患者の病氣の歴史を書いた。但しそれは恰も氏の辯明に過ぎないやうであつた。所がその夜遅く、殆んど翌朝に近い頃、氏は次のやうな夢を見たのである。



「一つの大きい室——吾々の招待した多くの來客——その客の後にイルマが居る。直ちに予(フロイド)はイルマの手紙に返事をしようと、彼女を側に寄せた。それは彼女が今尙打明けることを承諾しないことに對する非難である。予は彼女に向つて、若しあなたの痛みがまだ取れないで居るなら、そはあなたの罪ですよと言つた。それで彼女は、私が頭・胃・胸がどんなに痛むか、その痛みが私の身體を縛るやうにあることを若しあなたが知つたならば、そんなことは仰しやらないだらうと言つた。私は驚いて彼女を眺めた所が、青ざめて膨れ上つたやうに見えた。それで私は結局彼女の身體の方面を忽かせにしたと考へた。窓の所へつれて行つて彼女の頭の處を見た。その時彼女は恰も入歯をして居る婦人のやうに幾分反抗的態度を示した。彼女に治療は必要でないかと考へた。——口がよく開いた。右の方に大きい白い班點があり、左の方には著しい皺のあるのを見た。それは明かに鼻甲介を模倣したやうで、灰白色の結痂がその上に擴がつて居た。——私はドク

トルM氏を直ちに呼んだ。氏は診斷を再び繰返して確證した。……ドクトルM氏はいつもより全く異つて居るやうに見えた。非常に青白く、片跛で、顎に鬚が無かつた。……私の友人のオットー氏が今彼女の側に立つて居る。朋友のレオ・ポルドは彼女の胸衣の上を打診して、左下の所に濁音があるといひ、又左肩の所の浸潤せる皮膚の一部を示した。(私は衣服のあるに拘らず彼が感ずる如くに感じた)……M氏は云ふに、疑もなくそれは傳染である。併し何でもない。が赤痢を起して病毒を排出するであらう。……吾々はその傳染が何處から來たかを直ちに知つた。友人オットー君はこの間彼女が病氣であつた時、プロピル化合物・プロピル・プロピオン酸……三メチルアミンを彼女に注射した。(三メチルアミンの文字が肉太に印刷されて居るのが私の目の前に見えた)……普通はこんなにか考へなしかやうな注射はしない。……恐らく注射器が清淨でなかつたのであらう。これでフロイドの夢は終つて居るが、この夢はその前日の出來事が主題となつ



て居ることは明かで、氏が夜遅くまで書いた病氣の経過が、睡眠中の精神活動にまでも尙影響して居ることが分かる。夢の後の部分は最初の部分に比して不明瞭で且混雜して居る。プロピオン酸の注射や、M氏の言つたことなどは實に滑稽に見える。この夢をフロイドは如何に分析するか、以下に之を詳述しよう。

室——吾々が招待した多數の來客。この夏私達（フロイド一家）は禿山に續いた岡の上にある一軒家の景色のいゝ所に住んで居た。以前この家は娛樂場であつたので、天井が非常に高く、反響のするやうに出來て居た。夢はこの見晴しの家で起つて居る。而して私の妻の誕生日の二三日前のことである。妻はその日の來ることを待ち構へて居り、又その日に多くの友人を、（その中にはイルマも）客として招待することになつて居た。それで私の夢は次のやうなことを豫示して居る。即ち私の妻の誕生日が來て、その日には多くの人々が、（その中にはイルマも）この見晴らしの室に賓客として招待せられるであらうと。

私はイルマに打明けることを承知しないことに就て非難した。若しあなたが尙苦痛を覚えるならば其はあなたの罪です。これは私が覺醒時に於て彼女に言ふことが出來ればと、或は言つてやればと思つたことである。この當時の私の考へでは、病人に症狀の隠れたる意味を知らせることで私の職務は終つて居ると思つて居た。（これは後に正しくないと思つた）。それで病氣が治るか否かは彼女が打明けて話すか否かによるもので、私にはこの事に就て何等責任がないと思つた。この間違つた考へは私がイルマに話した言葉で明かであるが、これで自己の責任が全く免れたとして精神の小康を得たのである。

頸部・身體・胃に於ける痛みが彼女を非常に苦しめるとの非難。胃の痛みは彼女の症狀に屬して居る。しかしそんなに烈しくない。寧ろ彼女は不快と嘔氣とに苦しめられて居た。頸・胸・咽喉に於ける痛みは殆んど無い。それで私は何故にこの症狀を特に選んで夢に見るやうにしたか、當時その原因を發見することが出來な



かつた。

彼女は青ざめて、膨れ上つたやうに見えた。彼女は常に薔薇色をして居た。私は他の人を彼女に移したと想像する。

私は彼女の身體的疾患を忽にしたとの考から驚いた。少しも減退しない恐怖やその他の現象を、神経病専門の醫師はヒステリーであるとしてしまふ傾があるが、他の醫者は是等を身體的症狀として取扱ふことがあるといふことは、世人のよく知る所であらう。他方に又私の驚愕は果して正直なものであるか否かの軽い疑惑が生じて來た。イルマの痛みが身體的原因によるとすれば、私はその治療に責任が無いことになる。私の療法は只ヒステリー性苦痛のみを除去した。それでこの夢は特に、私が却て診断の誤謬を望んで居たかのやうに思へる。蓋し診断の誤謬とすれば、不結果に對する非難を免かれることが出来るからである。

私は彼女の頸部を見ようと窓の所につれて行つた。彼女は義齒を有する婦人の

如くに少しく拒絶した。それは彼女に不必要であると思つた。私はこれまでイルマの口腔を検査したことがない。夢の中の出來事は少し以前に一女教師に就て研究を試みたことを思ひ起さしめる。その女教師に就ての第一の印象は若々しい美しさといふことで、口を開く時に努めて齒を見せまいとしたことである。之と聯關して他の醫術的研究と少しの秘密とを回想する。この二つとも愉快を示すやうなことでない。あなたに治療は必要でないといふことは、イルマに對する挨拶である。しかしこれには尙他の意味があるやうに思はれる。イルマのやうに窓の側に居る様子は突然他の經驗が心に浮んでくる。イルマは一人の親しい友人をもつて居たが、その婦人を私は非常に尊敬して居た。或夜その婦人を訪問した時に、夢に見た通りに窓の側に居るのを見た。彼女の醫師M氏が、彼女にはデフテリアの舌苔があると言つた。ドクトルM氏の容貌と舌苔とが、夢の通りに再現して來る。私は最後の瞬間に彼女はヒステリー的であると思はれる凡ての原因を發見し



たことが今思ひ浮んでくる。イルマも亦私にその事を洩したことがある。如何なる状態から、彼女のヒステリーを知つたかといふに、彼女は私の夢の中にイルマと同じやうに、ヒステリー性嘔氣に苦しんで居るからである。かやうに夢の中では私の患者はその友人と入れ替つて居る。今私は思ひ起すが、この婦人がその症状を治癒する爲めに私に頼めばいゝがと度々想像した事がある。しかし大變に内氣な女だから、頼むやうなことはあるまいと思つた。それで已に彼女は拒絶して居る。又彼女にそれが必要でないといふ他の説明は斯うである。即ち彼女はこれまで實際に壯健で、他の助けを藉らずしてその状態を制することが出来るといふ解釋である。茲に又イルマにも、その婦人にも發見することの出来ない一二の状態がある。それは青白く膨れ上つた顔付と義齒とである。義齒に就ては茲に述べた女教師のことが思ひ浮べられる。私ならこんな入齒をしないで、悪い齒で満足して居ると思つた。青白く膨れ上つた顔付に就ては、他の婦人が心に浮んでくる。

それは私の患者でない。その婦人は不従順で、私を困らせるだらうと思はれるので、私の患者にしたいくないと思つた。その婦人は嘗て幸福に暮して居た時は肥つて居たが、しかし顔色は常に青白であつた。私が夢の中にイルマをそんな人と取換へたのは如何なる意味であるか。恐らく私は取換へたいと思つたのであらう。蓋しその婦人が強く私の同情をひいた爲か、或は知能が優れて居ると思つた爲に、私の患者になればいゝがと思つたのであらう。イルマは私に打明けることをしなから、彼女は餘まり利口でないと思つた。之に反して他の婦人はずつと利口で、私の言ふことに従ふであらうと思つた。口がよく開いたといふことは、イルマよりも多く物語つたといふ意味である。

私が首の處で發見したものは、白い班點と結痂ある鼻甲介とであつた。白い點はデフテリアを憶起し、それからイルマの友人、並に私の長女が二年以前に烈しい病氣にかゝつたこと、その不幸時に於ける恐怖等を思浮べる。鼻甲介の結痂は、



私自身の健康に就ての心配を憶起する。この時鼻の腫脹を壓へようと屢コカインを用ゐて居たが、二三日前私と同じくコカインを用ゐて居た一患者が、鼻粘膜の壞疽を引起したことを聞いた。千八百八十五年私が公にしたコカインの推擧が、眞面目なる非難を受けた。千八百九十五年に死んだ朋友は、コカインの濫用の爲めに其死期を早めた。

私は診断を繰返すやうに、直ぐにドクトルM氏を呼んだ。この有様はM氏を吾々の所に呼んだといふに過ぎない。しかし直ちにといふことが、特殊の事情のあることを説明するに餘りあるのである。私は醫師としての悲しむべき経験を思ひ浮べる。私は嘗て一患者にズルフォナルを永く用ゐた爲めに、その患者は烈しき中毒を引起し、それで經驗ある年上の同僚に急いで救助を求めた。この事實が特に眼前に浮んでくることは、その附帶の事情に基いて居ることが多い。即ち中毒を引起した患者の名が、私の長女の名と同じであるといふことである。私はこの事

に就て今まで思つたことはなかつたが、今になつて恰も復讐の運命に遭遇したやうである。目は目を以て讐ひ、齒は齒を以て報ゆと聖書にあるやうな賠償的欲望が他の意味に於て續いて居たやうである。即ち醫師としての良心が私自身を非難しようとして、あらゆる機会を捜がして居たやうに見ゆる。

ドクトルM氏は青白く、顎に鬚がなく、跛である。M氏は顔色が悪くて屢友人の心配する所となつたことは事實である。しかし他の特徴はM氏でないやうである。それ等は今外國に住んで居る私の長兄のやうである。兄は常に鬚を剃つて居るし、又二三月前の通信によれば、腰部に於ける痛風の疾患の爲めに跛となつたといふことで、大體に於て夢の中の像と兄とが似て居た。何故に夢の中で兩人が混合して一つになつたかといふに、それには一の理由がある。私はこの兩人に對し同様の理由からして不快に思つて居る。即ち兩人に對して或申込をした所が、兩人ともそれを拒絶したので、私は甚だ心よく思つて居ないのである。



友人オットーは病人の傍に立ち、友人レオポルトは病人を診断して、左下の處に濁音のあることを報告した。友人レオポルトは等しく醫者で、オットーの親族である。此兩人の専門は共に同じであるので、人が絶えず兩人を比較するといふ風に相互に競争者の位置にあつた。私が神経病の兒童を取扱つて居る時、兩人とも私の助手をして居た。それで今の夢に於けるやうな光景は屢起つた。私がオットーと或患者の診断に於て議論して居た時に、レオポルトは新に檢診をし、その判決に貢獻すべき全く豫期しない事實を提供した。兩人の性質は異つて居て、オットーの方は敏捷であるが、レオポルトの方は細心で、根本的に探究するといふ風であつた。夢でオットーと用心深きレオポルトとを對立せしめたのは、レオポルトを賞讃する爲であることは明白である。之と同様な比較を不從順なるイルマと利口さうに見えた朋友との間に行つた。夢の中の思想の聯合は病氣に罹れる子供から子供の病院へと進むで行つた。左下の濁音の發見に就て一の事實

が思當られる。レオポルトが一患者の場合を詳細に報告した際に、私はその徹底的なることに驚いたことがあるが、その一々がよくイルマの場合と一致して居る。而してその患者に對する關係も亦同じやうにイルマの場合に起るかも知れないと思つたのであらう。蓋し私の見た所ではイルマは肺結核の眞似をして居ると思つて居たからである。

左肩に於ける浸潤せる皮膚の一部。私の知つて居る範圍では、これは私自身の肩のリューマチスである。夜遅くまで起て居ると、何時もこの痛みを感じた。「彼が感ずる如くに私が感じた」といふ夢の中の言葉は不明瞭である。「浸潤せる皮膚の一部」といふことも異様に響くやうである。脊の左り上の浸潤は通常肺と關係し、従つて結核と關係して居る。

衣服を着て居るに拘はらず。これは全くの挿入語である。小兒科病院では、子供を裸にして診断する。しかし婦人患者を診断する様に衣服を脱かないで行ふこ



ともある。或る有名な臨床學者は着衣のまゝ、衣服を透して身體上の檢診をするといふことである。これ以上の説明は出来ない。

ドクトルM氏が云ふに、それは傳染である。しかし何でもない。が赤痢になつて、病毒を排出するであらう。これは最初馬鹿々々しいやうに思へたが、しかし他の部分と等しく注意深く解剖しなければならぬ。精密に考へて見ると、これにも一種の意味がある。私が例の婦人患者に發見した所のものは、局處の Diphtheritis であつた。私の娘がこの病に冒されて以來、Diphtheritis と Diphtherie とに就て、一家の意見を有して居る。即ち後者は一般的傳染で、局處の Diphtheritis より起つたものであると思ひついた。レオッポルドはこの一般的傳染を濁音によりて證明し、その濁音は病毒移轉の巢窟であると考へた。私は Diphtherie の際にはかやうな病毒移轉は起らないと信ずる。而してこれ等は私をして膿毒症を聯想せしむるのである。

それは何でもないといふことは、慰安の言葉である。夢の最後の部分は、患者の苦痛が烈しき有機的障害に基づいて居るといふことを示して居る。私が自己の責任を免れようとして居ることを示して居る。ヂフテリヤの苦痛が繼續することに対しては、心理的療法は何等の責任がない。自己の責任を免れる爲めに、イルマにありもしない苦痛のことを書立てたことが、私を困らして居る。それは至つて残酷に見える。但し善い結果が得らるゝことを確證し、その慰安の言葉をM氏が云つたやうにしたといふことは、悪い選擇でないやうに思へる。しかしこの慰安の言葉が無意味に見えるのは何故であるか。

赤痢に就て思ひ出すことがある。二三月以前便通の悪い病氣に罹つて居る若い患者を診察したことがある。同僚はその者を榮養不良に基づく貧血の一種であると考へて居たが、私はそれをヒステリーとして取扱つた。しかし精神療法を彼に施すことを欲しないで、彼はそのまゝ航海の途についた。所が二三日前彼が埃



及から出した失望の手紙を受取つた。即ち彼はそこで新たな病氣に罹かつたが、醫師はそれを赤痢だと言つたといふことである。それでヒステリーだと私の云つたのを嘲つた無學の同僚の診断は誤謬であると思つた。しかしヒステリー性の腸疾患に有機的疾患を齎らすやうな状態に患者を置いたといふ非難は免れることが出来ない。而して Dysenterie (赤痢)と Diphtherie (チフテリア)とは類似の音である。

赤痢に於てはこの外ドクトルM氏のことを附加する必要がある。彼が數年前一度他の同僚に就て之と同様なことが起つたことを私に話したことがある。即ち大病人があつて、その同僚の診断の相談に彼は一度呼ばれた。助かる望みがあると喜んで居る同僚に向つて、彼は病人の尿中に蛋白質のあることを注意した。しかしその同僚は少しも彼の言に耳を傾けることなく、落ちつき拂つて、それは何でもありませぬ。蛋白質も分泌せられるでせうよと答へた。夢の中の此一節は、ヒス

テリーに就て何にも知らない同僚に對する嘲笑を含んで居るといふことが、茲に至つて明白となつた。これは又次のやうな意味に導いて行く。即ちドクトルM氏は患者即ちイルマの朋友が結核を恐れて居ることがヒステリーに基づくことを知つて居るか、氏は此種のヒステリーに關する知識があるか、或はその爲めに當惑しては居ないかなど、いふ疑問に導いてくる。

加何なる動機からして、かやうにM氏を輕蔑するのであるか。その理由は極めて簡單である。即ちM氏はイルマと同じく、私がイルマに對して自白を要求することに全く同意しない。かやうにして私は此夢の中で二人の者に復讐をして居る。即ちイルマに對しては、お前が痛みを持つのはお前のせいだといふ言葉で復讐して居るし、M氏に對しても、無意味の慰安の言葉を言はしむることによりて報復して居る。

この傳染が何處から來たかを吾々は直ちに知つた。この直ぐに知るといふこと



が注口すべき點である。レオッポルドによりて傳染が證明されたからして、それ以前に吾々は知らなかつたのである。

友人オットーは彼女が不快を感じる時に注射を行つた。オットーの話によると、彼はイルマの近くの宿屋に泊つて居たが、或日イルマの家族を訪問すると間もなく、そこで急病に罹つた或人に注射をしたといふことである。注射に關聯して私は又コカインの中毒にかゝれる不幸の友達のことが想起される。私は彼にモルヒネ除去の間は、内服のみするやうにと忠告したが、彼は直ちにコカイン注射を行つた。

プロピル調劑……プロピル酸。私は病歴を認めた晩、私の妻が飲料のはひつてる瓶を開けた。その上にAnanasといふ文字が讀まれた。(アナナスといふ音はイルマの苗字によく似て居る。)而してその飲料は友人オットーの贈物であつた。所がこの飲料を飲む氣になれない程、フーゼルの匂(アミル)がする。そ

れて妻はそれを家僕にやらうと言つたが、私は博愛的注意を以てそれを遣つては宜くないと止めた。フーゼルの匂は夢に表はれたプロピルやメチル等の全系列を明白に憶起せしむる。私はこの際アミルを嗅いだのに、夢には代用物を採用して、プロピルの夢を見たのである。しかしかやうな代置作用は有機化學にも起る所のものである。

三メチラミン。私は夢に於てこの物質の化學方程式を見た。それを記憶するに何時も非常の努力を要したものであつた。よく世人が特に大切なる部分を肉太に印刷するが如く、此方程式も肉太に印刷されてあつた。何故に此文字がしかく私の注意を引いたのであるか。私は數年間胚種の研究を友人に示し、友人もその研究を私に示して、互に意見を交換して居たが、或時その友人は性的化學に關する一個の意見を述べ、且つ三メチラミンは性的物質代謝の産物の一であると信ずる旨を告げた。而して此物質は、私が治療せんと思つて居る神經的疾患の起源に最



重大なる意味を有して居る。私の患者イルマは若い寡婦である。彼女に對する治療の不結果の罪を免れようとするには、此事實を引用するのが最都合がよい。而して夢に於てイルマの位置を取て居る他の患者は、やはり若い寡婦であるといふに至りては實に驚くべきことである。

かやうに三メチラミンの語には多くの重大なことが結び付て居る。即ちその語は性慾説の有力なる要素たることを示すばかりでなく、又一人の友人を暗示して居る。蓋しこの友人のみは、誰も顧みない所の私の意見に賛同するので、私は極めて愉快にその人のことを憶ひ起すのである。かやうに私の生涯に重大なる意義を有する友人が、夢の思想聯合の上に表はれてくるのは當然である。彼は又鼻及び鼻副孔より生ずる作用に就ての専門家であつて、鼻甲介と婦人の生殖器との著しい關係に就ての研究を始めた。私はイルマの胃の痛みが鼻に原因して居ないかをその友人に診断して貰つた。彼は自身に鼻の化膿に苦しんで居たので、私はそれ

を非常に心配して居た。而してこの病氣は夢に表はれた病毒移轉の場合の膿毒症を暗示して居る。

一般には考へなしに、こんな注射をしない。考へなしにといふ非難は友人オットーに向けられて居る。その日の午後彼が私の意見に反對した言葉と容貌を示した時に、如上の非難が私の心中に浮んだ。即ちすぐさま自己の判断で仕事をする男だと思つた。上述の言葉は又直ぐにコカイン注射を行つた所の死んだ朋友を憶ひ起させる。私は又前に云つた様に何等の考へもなくズルフォナルの注射を行つたことがある。私がオットーが直ぐさま化學的藥品を注射したことを非難すると同時に、ズルフォナル注射の爲め中毒を起した婦人のことが聯想され、その注射に對する非難が憶ひ出される。かやうにして私は、自己の細心であつた例と、その反對の例を凡て茲に蒐集して居る。

恐らく注射器は清淨でなかつた。これは又他の方面から起つた、オットーに對



する非難である。昨日私は八十二歳になる婦人の子供に偶然出會つた。嘗て私はその婦人に毎日二回のモルヒネ注射を行ふ必要があつた。その婦人は目下田舎に住んで居るが、靜脈炎に苦しんで居るといふことを聞いた。その時注射器の不淨の爲に浸潤の起ることを考へた。而して二年間の注射に彼女に少しの浸潤をも起さなかつたことを自慢にして居る。蓋しこれは注射器が清淨であるか否かに常に注意深くあつた證據であるからである。靜脈炎のことから私の妻が妊娠の時、靜脈鬱血に罹つたことが聯想される。而して私の記憶の中に私の妻、イルマ、死んだ患者の三個の同様な光景が浮んでくる。夢の中でこの三人が相互に入れ代りて表はれてくるのは、一に此の三人の同一なることに基づいて居る。

## 二、夢の思想

前に説明した通りに、夢の各事項に注意して、それに伴うて生ずる思想に對し、

故意に選擇を行はずして得た所の、所謂自由聯想の結果を蒐め、それに秩序をつけて見ると、夢の表面だけでは、何の意味もないやうでも、その實は本人と重大の關係を有する精神作用であるといふことが分かつて來る。かやうにして得た所の精神作用は、フロイドの所謂夢の思想(*Traumgedanken*)で、夢の潜在内容(*latente Trauminhalt*)を形成するものである。之に對して夢の表面に表はれたる精神作用は、顯在内容(*manifeste Trauminhalt*)と名づけられる。故に夢の意味を知るには、まづその顯在内容を潜在内容に翻譯して見ることに必要である。これは丁度解釋を加へて始めて象形文字の意味が明らかになると同じことである。

今前に述べたイルマに關する夢の例を取つて見ると、その顯在内容は荒唐無稽の點が極めて多い。處がその潜在内容即ち夢の思想を搜つて見ると、條理一貫した意味を持つて居る。即ちフロイドはこのイルマの夢によりて實現したいと言ふ目的を持つて居る。換言すれば夢の動機がある。この夢は前夜の出來事、例へば



オットーの報告や病床日誌の記載等によりて鼓舞されたる二三の欲望を満たして居る。夢の意味は、今尙存在するイルマの苦痛に對し、フロイドは責任がなく、却てオットーに責任があるといふことである。オットーはイルマが未だよくならないで居ると言つて、フロイドに心配を與へたが、夢に於てフロイドは彼を非難することによりて復讐をして居る。而してフロイド自身は全く責任を免れて居る。かやうに夢は氏自身が望んで居た事柄を實現して居る。故に夢の内容は願望の實現で、夢の動機は願望である。

夢は願望の實現であるといふ見地から、イルマの夢を解釋すると、その一々の意味が明白になつてくる。オットーに對する復讐ばかりでなく、ドクトルM氏の反對意見に向つても罵倒を浴せて居る。而して三メチラミンのことを告げた朋友を賞揚すること、イルマよりもその利口さうな友達を賞揚すること、オットーよりもレオ、ポルドを賞讚することは、凡て同一の動機から起つて居る。但し氏の

娘の病氣、娘と同名の患者の病氣、コカイン中毒、埃及に行つて居る氏の患者の病氣、氏の妻及び兄の健康に就ての心配、氏自身の病氣、鼻の化膿に苦しめられて居る氏の友人に對する心配等は、イルマの病氣と何等の關係がないやうに見ゆる。しかし之は自他共醫師としての細心といふことが基礎をなして居る。蓋し氏はイルマの病氣の治らないことは、醫師としての義務を盡して居ないとか、充分細心でなかつたとか言はれるやうな氣がして心配でないのである。それで如上の諸事實を擧げて、醫師としての注意を充分盡して居るといふことを示し、以てイルマの病氣に對する責任を免れんとして居るのである。

かやうに大人の夢のみが願望の實現でない。子供の夢に於ても同一である。フロイドの示した數多の例の中一二を述べると次の如くである。

或る夏フロイドは八歳の女の子と五歳の男の子とをつれてアウスゼーの側の小丘の處に避暑をした。好い天氣の日には、そこからダハスタイン山の景色を賞す



ることが出来、望遠鏡で見るとシモニー小屋がよく見えた。子供等は喜んで望遠鏡を以てそれ等の景色を見て居た。或日ハルスタットの方へ散歩に行かうとする時に、ハルスタットはダハスタイン山の麓にあると子供に言つて聞かせた。子供等はハルスタットの方へ行き、それからエッシェルン谷に下つて行つて、種々と景色の變化するのを喜んで居た。處が五歳の男の子は漸次機嫌を悪くして来て、新らしい山が見える毎に、ダハスタインではないかと尋ねた。それでフロイドは、否それは前にある山であると説明しなければなかつた。幾度も同じやうな答を繰返して居たが、遂に黙つてしまつた。皆が瀑布を見る爲めに下りて行かうとしても、いやだといふので、フロイドは多分疲勞した爲だらうと思つて居た。處が翌朝になりて、その子供は氏に向つて、昨夜シモニー小屋の所に行つた夢を見たと言つた。茲に於て昨日子供が不機嫌になつたことが分かつた。即ちダハスタインの話聞いて居た時、その山に登ると、嘗て望遠鏡で見ながら種々話した所の小

屋が見えるといふことを豫期して居たに相違ない。所が前方の山や瀑布を見ようと言はれるので、何だか違つて居やしないかと思つて機嫌を悪くしたのである。それで子供は夢に於て賠償を求めたのである。

之と同じやうな夢が、フロイドの八歳になる娘にも経験された。一度氏が多勢の子供をつれて、蘆葦の小屋を見る爲めに、ドルンバッハの方へ行つた所が、餘り遅くなつたので途中から引返した。歸り途に「ハモ―道」と書いた道しるべの所を通つた。これも子供等が行きたがつて居たけれど、餘り遅いので後日再び連れて行く約束をして戻つて來た。所が翌朝になつて、その娘が満足したやうな顔付をしながら父に向つて、昨夜お父さんは吾々と一處に蘆葦小屋の所に行き、又ハモ―へも行つた夢を見たと言つた。かやうにして此の女兒は、父と約束したことの實行せらるゝ日を待ち遠しく思つて、夢に於て之を實現したのである。

フロイドは又これ等の子供よりも、ずつと幼い子供の例を擧げて居る。氏の最



も小さい女の子が生後十九ヶ月の頃、或朝嘔吐を催したので、一日中飲食物を削減して居た。所がこの空腹に一日を暮した夜、眠を覺まして次のやうなことを叫んだ。「アンナ・フォイド(フロイド)、オランダ苳、ホッホペール(苳の一種)、卵子料理、パツプ(食物の一種)」と。これ等は凡て子供の欲する食物の名である。苳の名が二度までも表はれた理由は、家婢があらゆる苳を嫌つて居るので、それに對する示威運動に過ぎないのである。

かやうに夢の潜在内容は條理一貫して、何れも願望の實現であるが、この夢の思想が顯在内容となる場合には、種々と變装してその形を變へて表はれてくることが多い。例へば前記のイルマの注射の夢に於て、フロイド自身の責任を免れたいと願望が、種々の形を取つて表はれて居る。かやうな變装作用は一定の心理上の法則に従ひ、確かなる理由があつて行はれるものである。而してフロイドはこの變装作用の原因は意識の監視作用(Censur)に由ると主張する。この點がフロ

イドの説の中心であり、又夢の説の中で最も創見的の部分である。抑、吾々には無意識的精神作用が働いて居る。これが意識上に表はれないのは、意識の監視作用が働いて居て、その出現を抑止して居るからである。氏が種々の異常なる精神作用や、精神病の症狀等を分析して、此作用の存することに考へついた事は既に前二章に述べた所であるが、今夢を分析して見ても、夢の作用は此等とよく似た計畫の上に構成されて居るといふことが分かつた。意識の裏面に潜む夢の思想が表面に表はれる際に、監視作用の爲めに變形せられる所謂變装作用には以下に述ぶるやうな四種類がある。

### 三、壓縮(Verdichtung)

夢の顯在内容と潜在内容とを比較して見ると、前者は後者に比し、貧弱で簡潔で緊縮されて居る。それは顯在内容の各要素は、幾つかの夢の思想を代表して居るからである。フロイドの言葉で云へば überdeterminieren されて居るからであ



る。かやうに顯在内容は潜在内容の壓縮されたものであるから、或夢を分析して潜在内容を搜つて見ると、顯在内容よりも遙かに豊富なものとなり、往々十倍乃至二十倍に及ぶこともある。今壓縮作用を示す一例としてフロイドが植物紀要に關して見たる夢とその分析とを述べよう。

夢の内容、私（フロイド）は或植物に關する紀要を書いた。その本は私の前に置いてある。私は折り込んだ色刷の表をめくつた。乾かした植物の標本が結びつけられてある。

この夢の最明白なる要素は、植物に關する紀要である。これは夢を見た前日の印象から起つて居る。フロイドはその日本屋の陳列窓の所で *Cyclamen* といふ植物に就ての紀要を見た。この種屬の叙述は夢の内容中に缺けて居る。只紀要及それが植物學に對する關係とが残つて居る。この植物紀要は氏が嘗て書いたことのある、コカインに關する論文に關係をして居る。コカインからは又二様の思想の

聯合が生じてくる。即ち一方には祝ひの手紙と大學實驗場に於ける或處置とに關聯し、他方には氏の友人にして眼科醫たるケーニッヒスタインに關係してくる。此人はコカインの利用に同意をして居る人である。この人の名からして、氏が前日の夕方その人と議論をして途中で止めたこと、及び同僚間の醫學上の仕事に對する報酬に就ての種々の交渉が聯想されてくる。此等の會話が實際に夢を惹起して居る。植物紀要は現實的のものではあるが、中性的のものである。換言すれば、この紀要は一方に中性的印象をそのまゝ得た當日の出來事と、他方に豊富なる聯想による重大なる心理的經驗の中間結合者と見るべきである。

植物紀要は單に複合概念である計りでなく、植物と紀要とその一々の概念にも種々の經驗が結合して、夢の思想を複雑にして居る。植物といふことには、ゲルトナー教授その人、その人の華やかな夫人、フローラといふフロイドの患者、妻の誕生日にその妻の愛する花を買つてくるのを夫が忘れたので、夫の無情を怨ん



だ所のその婦人等の記憶に關聯して居る。ゲルトナーの名より實驗場、實驗場よりケーニッヒスタインへと連想される。それからこの人と談話の際に聞いた二人の婦人患者のことが連想され、それは又花を持つた婦人を連想し、更に又氏の妻の愛する花へと移つて行つた。「植物」といふことはギムナジウムや大學時代の試験のことを聯想させる。それから氏の愛花であつた朝鮮薊が聯想され、これより一方には伊太利を聯想し、他方には子供時代のことが憶起されてくる。かやうに「植物」といふことは、多數の思想流が夢に向つて會合する所の交叉點となつて居る。又「紀要」といふことは一方に氏の研究の固陋なりしこと、他方に戀人の贅澤なりしこととが關聯して居る。「彩色の表」に就ても諸種の觀念が結び付いて居る。即ち氏の研究、それに對する同僚の批評、幼時彩色の表のついた本を持つて居たこと等が憶ひ出される。「乾いた標本」に就いてはギムナジウム時代のことが聯想されて來るといふことである。

かやうに顯在内容は潜在内容の中に含まるゝ廣汎なる材料をそのまゝ壓縮して代表して居ることもあるが、稀には潜在内容の一部を脱落したのみで、顯在内容となることがある。又夢に現はれた人の顔は、數人の顔の特徴を組み合せたものであることがある。この場合には之を「集合人物」(Sammelperson)と名づける。その中にも甲の人に屬する特徴に、乙の人の特徴を混じて作ることもある。又ゴルトンの重ね寫眞のやうに、兩者に共通せる特徴を強め、共通しない特徴を抜いて作ることもある。かのイルマに關する夢に於て、ドクトルM氏は、Mといふ名前・その話し振り・動作等は少しも本人に相違ないが、身體上の特質と痛みとは、フロイドの長兄に似て居る。只青白い容貌だけが、實際に兩者共相似て居るので、その特徴を強めて居る。

かやうに二人に共通したる特徴は夢の上に表はれてくるけれど、裏面に潜む夢の思想の中心點たる根本的の類似は、夢の顯在内容に表はれて來ないのが普通で



ある。夢の上に表はれた皮相的の類似は、もつと深い所にある根本的の類似を蔽ひ隠して居るもので、夢の思想の主要部分を知る手がかりとなるものである。又この作用は二人の間に、かくくゝの類似があればいゝがといふ希望を示すに止まることがある。前に述べたイルマの注射に關する夢に於て、イルマがその友人と交替したのは、即ちフロイドが自分の患者として、イルマの代りにこの友人を持ちたいといふ願望の實現に外ならない。

壓縮作用は又單語或は事物の名にも行はれるものである。フロイドの友人は嘗て或種の論文を書いて氏に送り届けた。氏はその論文が近時の生理的發見を餘り重く見すぎて居るし、且豊富なる辭句を以て書かれて居ると考へた。處がその晩この論文に關係した夢を見、それは眞にノレクダル(Norekdal)風である」といふ句が夢に現はれた。最初氏はこの語の構成を解釋することが出来なかつた。尤もKolossal(巨大なる)とか、Pyramidal(金字塔の)とかの形容詞に模して作つたも

のであるといふことだけは明白である。しかしその語源は何處から來たか。氏は種々と考へた結果、それはイブセンの有名なる劇中の人物、ノラ(Nora)とエクダール(Ekdaal)との二つの名が結びついて出來たものであるといふことが分かつた。蓋し氏は同じ夢の中で、イブセンの作を批評して居たし、且つ以前に雜誌でイブセンの作を読んで居たといふことである。

かやうに夢の中で語を新しく作るといふことは、精神病患者、就中早發痴呆患者に於けるそれと甚だよく似て居る。子供の或時期に於て、語が對象物として取扱はれ、任意に新語を作り、又勝手に語の排列をする場合の技術も、夢や精神病に於ける夫等と同一のものである。

以上述ぶる所によりて、壓縮作用は或一方向にのみ起るもので、顯在内容に表れた各要素が、潜在内容に於ける多數の要素を代表して居る關係は、恰も代議士が多數國民を代表して居ると同様のものであると考へることも出来る。併し必ず



しもさうばかりとは云へない。蓋し顯在内容に表れたる各要素は、數多の潜在内容と結びついて居るばかりでなく、潜在内容の各要素は幾つかの顯在内容と結びついて居ることもあるからである。加之夢の全構造の各要素は、往々相互に聯合して居つて、恰も網をこぐらかしたやうな觀を呈して居るので、その中に行はれて居る秩序や法則を知るには、十分なる分析を施さなければならぬ。

#### 四、轉移 (Verschiebung)

前に述べた種々の夢の例を見ると、顯在内容に於て主要なる要素となつて居るものが、裏面に潜む夢の思想に於ては同一の役目を演じて居ないことがある。又之と反對に夢の表面に於ては些々なる事柄のやうに見えても、夢の思想に於ては極めて重大なる要素となつて居ることがある。夢の思想中の主要なる内容は、夢の表面に全く表はれないで、他の要素が中心となり、その周圍に内容が排列されて居ることがある。例へば前記の植物紀要の夢に於て、「植物」といふ要素が夢の

内容の中心點となつて居るが、その思想に於ては何等重大なる要素となつて居ないで、その中心は却つて同僚間の契約行爲より生じた紛争、並に戀人に多大の犠牲を拂ふことに對する非難等である。かやうに烈しい情緒を伴つて居る夢の思想が、顯在内容となつて表はれる時には、極めて弱い情緒を伴ふことがあるし、之と反對に夢に於ては憎惡とか心配とか云ふやうな烈しい情緒となつて表はれて居ても、夢の思想に於てそれに相當する要素は極めて微々たるに過ぎないことがある。かやうな轉移作用をフロイドは「あらゆる心理的價値の交換」と名づけた。蓋しニイチエの語を借りたものである。この現象は精神病者にも屢々現はれるもので、潑刺たる興味や、激烈なる情緒が、些々たる觀念と結びついて居ることがある。いづれの場合に於ても、情緒がその位置を換へて、極めて顯著なる觀念が、今までは些々たるものであつた觀念と交替するに至るのである。而してこの一次觀念と二次觀念との聯合は往々皮想的の場合がある。特にその中でも多くある例



は、二つの觀念を言ひ表はす言葉について機智を弄ぶことである。この皮想的の聯合は普通裏面に隠れて烈しい情緒を有するものを隠蔽して居るものであるといふことは、ユングも既に證明して居る。前日に經驗したことで、極々些細なことが、夢の中に現はれてくるのは如何なる理由によるのであるか、一見不條理のやうに見ゆるけれど、それはこの轉移作用に基いて居るのである。その經驗が極めて些末である爲めに、従前の精神作用との聯合が殆んど出來て居ないので、夢を作る際にはそれが重大なる觀念を代表するやうに用ひられ、その觀念に伴ふ情緒までも、些細なる經驗の方に結びついて夢に表れるのである。夢の性質が荒唐無稽なることも多くはこの轉移作用で説明がつくのである。特に情緒の強さと知的の内容とが、奇妙に一致して居ないのは全くこの爲めである。夢の中で何でもないやうなものに襲はれて恐怖を感じたり、恐ろしく危険であるべきものに遭遇して居ながら平氣で居るやうなことがあるのは、即ちその例である。今フロイド門

下のジョーンスが轉移作用の一例として擧げて居る三十九歳の婦人患者の夢の内容とその解釋とを紹介しよう。

夢の内容、何か觀せ物を見て居るやうな風で、大きな棧敷の中に坐つて居た。軍隊が勇ましい軍歌を奏しながらやつて來た。それは葬列の先頭であつた。X氏の葬列のやうに見える。棺は布で覆はれた砲車の上に載せてあつた。あんなつまらない男が死んだのに大騒ぎをするのは、可笑しいといふ驚きの感情が明かに浮んで來た。その後から故人の兄弟と一人の姉妹どが従つて來て、又その後から二人の姉妹がついて來る。不都合にも派手な灰色の縞の着物をきて居る。兄弟は踊つたり腕を動かしたりして、「野蠻人のやうに」進んで行つた。その背中にはヤツカといふ木を負うて居て、それには若い蕾が澤山について居た。

この夢の意味は明瞭であるが、患者の覺醒時に於ける精神生活には當てはまらないやうに思はれる。それでジョーンスは分析を試みた處が次のやうなことが分



かつた。即ちX氏といふのは婦人の夫の假裝したものであつた。X氏と婦人の夫とは子供の時から深く將來を約して居たが、互に希望して居たことは違せられなかつた。X氏はモルヒネに耽つて健康と經歷とを害ひ、夫はアルコールを嗜んだ。患者は自分の夫が酒に耽る習慣のある爲めに、夫に對する妻としての愛情が疎隔するに至つたことや、夫が酒に酔つた時などには、全く嫌ひになることすらあるといふことを、激した調子で物語つた。それで夫が早く死ねばよいといふ希望の抑壓されて居たのが、第三者の葬式の夢となつて表はれたのである。X氏の經歷は夫の經歷に似て居るばかりでなく、同様に兄弟一人姉妹二人をもつて居るので、相互に交替をしたのである。加之患者の夫が何等の野心もないことや、その他様々の事情からして、妻たる患者は衷心之を甚だしく侮辱して居た。それも亦患者の夢に衣れて居る。即ちこんなつまらぬものゝためにかやうな大騒ぎをするのは可笑しいと考へたり、全世間がその葬式に對して喜んだり（軍隊は勇まし

い軍歌を奏したこと。夫は曾て義勇兵の士官であつたが、X氏は軍隊と何等の關係もなかつた）、極近い親戚に至るまでも之を喜んだ（兄弟の踊つたことや、派手な着物をきて居たこと）といふ夢を見たのである。X氏には妻があつたが、夢の中にはその妻が居なかつたことも、注意すべき點である。これは本人は自ら經驗して居ながら、それを嫌やだと思ふ感情は、他人にも屢それを移すといふことの一例として見るべきである。即ち嫌ひな夫の葬式には出たくないといふ感情を他人に移した結果、X氏の妻が夢の中に表はれなかつたのである。

併し實際に於ては、X氏は未だ生きて居る。X氏と患者とは面識ある普通の知人に過ぎない。只葬列に加はつて居たX氏の兄弟と患者とが曾て婚約をして居た。處が患者の兩親は術策を廻らして二人の間に誤解を生ずるやうにしたので、遂に患者は怒つて、約婚の男を棄て、夫と結婚し、取返しのかぬ後悔の種を播いたのである。X氏の兄弟はこの結婚に對して非常に怒つて嫉視して居た。たゞ夢の



表面ばかりを見て、兄弟の死を喜んだといふと不合理のやうであるが、之を患者の夫が死んだといふことにして見ると、その人が葬列に従つて居ながら大に喜んだといふことは、大に理屈に協つて来る。彼が烈しく手を動かし、「野蠻人のやうに踊つた」のは患者が故國に於て見た儀式、殊に結婚の儀式を憶ひ起したのである。その男が背負つて居たヤツカの木は西方諸州に産する硬い灌木で、これは生殖器の象徴であることが分かつた。而して若い蕾は子孫を意味するものであつた。患者は夫の不品行のために、一人も子供の出来ないことを非常に遺憾に思つて居た。故にこの夢は、自分の夫が死んで、世人は誰も之を悲しまないで、自分は昔の戀人と結婚して多くの子供を生むといふ意味である。

##### 五、描寫(Darstellung)

潜在内容が顯在内容に表はるゝ際にその形を變へるには、壓縮と轉移との兩作用あることを述べたが、これ等以外に、夢に採用せらるゝ材料の選擇に影響を及

ばす二個の條件がある。その一は描寫と稱する働きである。吾人の夢に表はるゝ顯在内容は、或境遇又は動作を描寫して居る。その描寫は恰も繪畫や彫刻の技術と同じく、一定の制限の下に立つて居るものである。直接に描き出すことの出来ない精神作用を示すには、特別な技巧上の工夫を要するといふことは勿論である。この點に於て夢は又劇の描寫とよく似て居る。例へば劇の作者が數年間に亘る事件を二三時間の中に描寫してしまふには、どうしてもその材料に選擇と變形とを加へなければならぬ。夢に於ても之と同様である。例へば一個の象徴が多數の事物を代表して居ることもあるし、過去の經驗が現在の行動となつて表はれてくることもあるし、未來に關する希望が現在の境遇に於て實現されたことを夢みることもあるのである。

種々の知的作用を夢の上に表はすことも亦一種の描寫と見るべきである。判断のやうな知的作用は、屢夢の顯在内容に表はれてくるけれど、それは裏面に潜む夢



の思想中に生じたものである。夢の思想中には、判断・論議・條件・證明・反對などのやうな各種の知的作用が行はれて居る。しかし此等の多くは、夢の顯在内容に特別に表はれて居ない。通常は夢の思想の材料たり内容たるものだけが夢に表はれて、その間にある論理的關係は全く取れて仕舞つて表はれて來ない。しかし夢の作用は時々特別の工夫を用ひて、如上の論理的關係を間接に表はさうとして居る。但しこの工夫の行はるゝ範圍は、夢によりても、又人によりても、夫々異なるものである。

夢の思想の各要素間に存する論理的關係は、覺醒時の思想と同じやうに、「若し」「何となれば」「故に」「假令……と雖」「……か……或は……かである」等の言葉で言表はされるけれど、それは直接顯在内容に表はれて來ない。それを間接に表はすには次のやうな工夫をする。例へば二つの思想の間に存する論理的聯絡を示す時には、それを代表する二要素が同時に顯在内容に表はれて來るのである。前に述

べた夢の例に於て、夫の死と再婚と子供を産むといふ三種の思想は、論理的に聯絡して居るけれど、顯在内容に於てはこれ等の三要素が同時に表はれて來て、その論理的關係を示して居る。恰も畫家が一室内或は一山巔に集合して居ない凡ての哲學者又は詩人を、それ等の思考方法に共通點がある爲めに一處に畫くやうなものである。

二つの夢の間に存する因果の關係は、通常少しも示されないものであるが、それが表はれる場合には、一つが他のものゝ後に生ずるといふやうな形式を取るものである。最も普通に見るのは、原因となるものが序夢(Vortraum)に表はれて、結果が本夢(Haupttraum)に表はれる場合である。フロイドの一婦人患者は嘗て序夢として次のやうな夢を見た。即ち「彼女は二人の下女の居る臺所に行つて、未だ食事の用意が少しも出來て居ないと小言を云つた。この時多數の大きな臺所道具がひつくり返つて、うづ高く積み重なつて居るのを見た。二人の下女は水を取り



に行つたが、家や庭の所まで溢れて居る小川に汲みに上つて行かなければならなかつた」。

この序夢の後本夢が現はれて來た。即ち「彼女は珍らしく作られた欄干を越えて、高い所から下りて來た。而して彼女の衣物がどこにも懸けてなかつたことを喜んだ」。この序夢は前の婦人の兩親の家に關聯して居る。臺所に於ける言葉は、彼女の母親がよく屢言つた所のものである。大きい家具の積み重ねは、同宅に於て簡単な品物を取扱つたことに原因した居る。第二の夢は父に對する諷刺である。蓋しその父なる人は下女のするやうな仕事をせつせと勤め、その後洪水（家が川の岸の處にあるので）の爲めに命に係はるやうな病氣に犯されたのである。序夢の下に潜む思想は、即ち「私はこの家、即ちかやうに賤しい不愉快な地位に生れたからして」といふことを意味する。本夢の思想は、前と同一の思想を繰返して居るが、願望實現の爲めに、「私は高貴の血統のものである」といふ風に變形して

居る。しかし本來は、「私はこんな賤しい血統のものであるから、私の經歷はかやうかやうであつた」といふことを意味して居る。

併し顯在内容がかやうに前後に分かれたと言つても、その二つの夢の思想の間に必ず因果の關係があると定まつたものでない。又稀には因果の關係を示す爲めに、甲の要素が乙の要素に變形するといふ方法を執ることもある。但しその變形は單に轉移するのみでなくて、直接の變形でなければならぬ。即ち甲の光景が乙の光景と交替して居るのではなく、甲が漸次に乙に變じて行くといふ風にして、因果關係を示すのである。

「或は」とか「いづれか」といふやうな論理的の關係が夢の思想には存在して居ても、顯在内容にはそれが表はれて來ない。それを代表する二つの要素がたゞ一緒に表はれるに過ぎない。この關係がそのまゝ顯在内容に表はれた場合には、それは夢の思想に於ける「及び」を翻譯したものである。即ち潜在内容にA及びBの要素



が存在する時、顯在内容ではA或はBとなつて表はれてくる。フロイドは伊太利に行つた友人から宿所を知らしてくるだらうと、永い間待つて居たので、或夜その宿所を電報で知らして來た夢を見た。その宿所は電報用紙に青く印刷され、第一の文字はぼんやりして居て、Via或はVillaと書かれ、第二の文字ははつきり居して、Beverno或は又Caseと書いてあつた。第二の文字が伊太利の地名の音と一致するといふことは、その朋友がその宿所を秘して居ることをフロイドが如何に心配して居たか分かる。分析の結果この後の三つの文字は夫々第一の文字に對し、思想連鎖の上から見て、相互に獨立・同權の地位を占めて居ることが知れた。

夢の思想間に存在する反對及び矛盾の關係を顯在内容に表はす方法に二種類ある。その一つは相反對する思想を代表する二つの要素が相融合して一つの統一體となるものである。前に掲げた所の珍らしい欄干を越えて下りて來た夢を見た婦

人は、尙その際花の咲いた枝を手に持つて居た夢を見た。この心像に關聯して、彼女は通告祭（三月廿五日天使 Gabriel の耶蘇降生を Maria に通告した記念の祭日。患者の名も亦マリアである）の繪の中に天使が百合を手にして居ること、聖餐祭の行列に白衣をつけた女の子が行くこと、その時市中は緑の木の枝で飾られて居ることが憶ひ起された。この花の咲いた枝は慥かに性的無垢を暗示せるに相違ない。その枝には赤い花が一杯ついて居るが、その一々は椿の花に似て居た。彼女が行く道の端の方は、花が可なり落ちて居た。これは明かに月經を暗示して居る。その花の枝は一方に無垢の少女を示す百合の花が咲いて居るのに、之と同時に他方には、平生は白いが月經時には赤くなるといふ椿姫を暗示して居る。故にこの花の枝は性的無垢を示すと共にその反對をも示して居る。又この夢は一方に一生涯を通じて無垢に暮すといふ喜びを表はして居るが、他方には之と全く反對な思想、即ち性的潔白に反する種々の罪惡に對する責を負ふといふ考が閃いて



居る。故に此夢は明かに二個の相反する思想に分析することが出来る。即ち一は表面に表はれた愉快な思想で、他は裏面に潜む非難に満ちたる思想である。しかしこの相反する二つの要素が、相融合して同一の夢の要素となつて居るのである。

かやうに二つの要素が融合して一つとなつて居る場合に、若しその融合が夢の材料中に既存して居るならば、これを同一化(Identifizierung)と稱し、新らしく構成せらるゝ場合には、之を混成(Mischbildung)と稱する。前者は主として人及び場所について行はれ、事物については滅多に行はれない。後者は主として事物について行はれ、時々人物及場所についても行はれることがある。同一化の作用に於ては、共通の點によりて結合したる人物の中の一つが描き出されて、他の人物は匿れてしまふものである。しかしこの表れた人物は自己及び匿された人物に基づく關係や位置の中に凡て表はれてくる。人物に於ける混成作用に於ては、例へ

ば夢中に表はれた顔は、一部は甲の、一部は乙の特徴をもつて居て、所謂集合人物となつて居る。

夢の思想間に存する反對の關係を顯在内容に表はす第二の仕方は、之を「逆」(Umgekehrt)に示す方法である。即ち夢の思想を變裝する爲めに、種々の機智をめぐらし、或要素の裏を以て代理せしむるのである。それで夢を分析するに當りて、それを逆にして見れば解釋のつくものが少くない。この逆にすることは、空間にも時間にも行はれる。空間に關する逆の場合には、上下を轉倒したり、左右を交替したり、或は前後を逆にしたりする。前に述べた夢の中で、生殖器を象徴するヤツカの木は、腹の方にあるべきを逆にして脊の方について居た。ジョーンズの掲げた所の時間を逆にして例によると、或婦人患者は最初出産を意味する夢を見、それに次いで夫の許を出奔して、戀人と同棲するを意味する夢を見て居る。描寫作用の中で非常に興味のあることは、夢の中に表はれたる數字が、或特殊



の意味を表はすことである。一婦人患者はその病氣が治る少し前に次のやうな夢を見た。即ち彼女はどこかで支拂をしようとして居る。彼女の娘が財布から、三、グ、ル、デ、ン、六、十、五、ク、ロ、イ、ツ、ェ、ルを取出した。それで「お前は どうしてそれだけの錢を出すの、それはたつた二十一、ク、ロ、イ、ツ、ェ、ル拂へばいゝのに」と言つた。この婦人は外國人で、その娘はキーンKeenの學校に入學して居た。それでその娘がキーンKeenに居る間はフロイドの治療を受くることが出来るのである。處が三週間でその學校は休みになるので、これと同時に治療も中止しなければならぬ。この夢を見た二三日前に、その學校の校長から、も一年その娘を學校に止めて置くやうにすることが出来ないかとの相談を受けた。それで若しさうなれば、一年治療を續けることが出来るかと彼女が考へたのは明白である。茲に於て夢に表はれた數字は、この一年即ち三、百、六、十、五、日と、學校の休み、並に治療の中止があと三週間即ち二十一、日、で來るといふことと、關係して居ることが明かになつた。何故に夢の思想中の同數

が、夢の内容では金錢の高で表はれたかといふに、これ「時は金なり」といふ諺の通り、時日が經つ程出費が嵩むことを意味して居る。而して夢に表はれた支拂金高の少ないことは、彼女の願望の實現に外ならない。即ち娘の學校の年限が短縮せらるゝと同じやうに、治療の費用も減すればいゝがと希望したのである。

#### 六、二次的推敲 (sekundäre Bearbeitung)

夢の内容に表はれた著しき出來事の起源を、その夢の思想に求むるに當りて、前に述べた三種の作用を知るだけでは不充分で、尙一つの假定を必要とするであらう。吾々は時々夢の中で非常に不思議に思つたり、或はその内容の或物に就て心配したり、或は之を拒絶したりすることがある。この夢の中の批評は多く夢の内容に向けられるのではなく、夢の中に採用された材料の一部として表はれてくる。しかも或場合には批評に相當する物を夢の材料中に見出すことが出来ない。夢の中に屢起る所の批評、即ち「それは夢に過ぎない」といふことは、抑何を意味



するのであるか。これは覺醒時に於ける批評と同じく、夢に對する實際の批評である。この批評は往々覺醒時の批評の先驅者となるもので、又屢その批評の前に苦痛の感情が起つてくる。而して此感情は、これは夢の状態であるといふ證言によつて靜まるものである。夢を見て居る間に「これは夢に過ぎない」といふ輕蔑的批評は何時も起るかといふに、それは未だ全く眠つて居ない監視作用が、既に許されたる夢によつて奇襲されると感ずる場合である。蓋しこの監視作用はその夢を抑壓するには餘り遅れ過ぎて居て、夢に伴ふ恐怖や苦痛の感に遭遇するやうになるからである。之は夢の凡ての内容が夢の思想に原因して居るとのみ限らないで、尙覺醒時の思考作用と同一なる心的機能、即ち批評作用が夢の内容に存して居ることの明白な證據である。しかし讀者の中には、この種の監視作用は全く例外的のものであるか、或は夢を構成する上に正規に表はれるものであるかといふ疑問が起るかも知れないが、それは言ふまでもなく正規に表はれるものである。

吾人は既に監視作用の影響として、夢の内容が緊縮及び省略せらるゝことを述べたが、この外内容の附加及び増大が起ることも、疑ふべからざることである。この附加は屢容易に發見せられる。しかしそれは大膽に活潑に表はれないで、：であるかのやうに「見え、夢の内容の二つの部分の結合及びその結合の開拓に役立ち得る場合に表はれてくる。それは又夢の材料の純粹の派生物として、記憶の中に僅かの耐久性を示して居る。故に夢が忘れられる場合には、この附加が最初に脱落する。吾人は常に多くの夢を見るけれど、その大部分は忘れて、碎片のみが記憶に残るといふことは、一にこの接合思想の急速なる脱落に基づくと推定することが出来る。十分に分析を行つて見ても、夢の思想の中にはこの附加物に就ての何等の材料を發見することが出来ないことが多い。しかし注意深き研究の結果によると、此場合はずつと稀に起るものと言はなければならぬ。この接合思想は大抵夢の思想中の材料に原因して居るが、その材料はそれ自身の價值から



云つても、亦夢に採用せらるべき権利から云つても著しく表はるゝことの出来な  
いものである。故に今述べ來つた所の、夢の構成に於ける心理的機能は、それが  
極度の場合には創造物となるのである。しかし出來得べくんば、夢の材料中で選  
出し得た有用な物を利用するものである。

前に述べた機能は、夢の作用の傾向である。この機能は夢の構成に於ける缺陷  
を補足して行く。この努力の結果、荒唐無稽で、何等の聯絡もない夢が、條理整  
然たる經驗の描寫に近寄つてくる。かの表面から見ると、何等の缺點もなく、論  
理的で且正當である夢は、矛盾のないやうに絶えず變化され、不思議に思へないや  
うな結論に導かれた結果である。即ち此夢は覺醒時の思考作用と等しき心理機能  
によつて推敲されたのである。それでその夢は筋道のたつた意味を有して居るや  
うに見ゆるけれど、この意味は夢の眞の意義とは關係の極めて遠いものである。  
夢を分析して見ると、二次的推敲作用が最も自由にその材料を手玉に取つて居る

ことを知るであらう。その夢は吾人が覺醒時に解釋を附する以前に、既に一度解  
釋せられて居るといふべきである。或夢に於ては、この一次的推敲は一部分即ち  
聯合を維持するだけに止まり、それより夢は混亂せる無意味のものとなり、第二  
回の推敲作用によりて、外見上理解せらるゝやうになるものがある。或夢に於て  
は、推敲作用が全く拒絶せられて、只斷片的内容の無意味なる堆積に過ぎないも  
のもある。

夢の構成に表はれるこの第四の作用は、創作的の新事物を夢に寄與する能力と  
見做してよい。而してこの能力の影響は、他の作用のそれと同じく、主として夢  
の思想中に既に構成されたる心理的材料を選び取ることである。夢の正面を建造  
する仕事は、夢の思想材料中に既にかやうな創作物が準備されて居て使用せらる  
ゝことを待つて居ることの爲めに、大部分その手数を省く場合がある。而して夢  
の思想中に創作物の準備せらるゝことは、想像(Phantasie)作用に基づくもので、



その想像作用は、覺醒時に於て空想 (Faschim) の創作せらるゝ場合に表はるゝ作用と同一のものである。推敲作用はその與へられたる材料を以て、空想のやうな或物を創作しようと求めて居るといふことが出来る。しかしかやうな空想が、既に夢の思想と聯合して夢を構成する場合には、夢の作用に於ける推敲作用は、空想の爲めに征服され、空想はそのまゝ夢の内容に織り込まれてしまふものである。無意識的に構成された日中の想像を繰返すに過ぎない所の夢、例へば子供がトロイ戦争の英雄と戦争をしたといふ夢を見る如きは、この適例である。モリーによりて傳へられた有名なる斷頭臺の夢のやうに、極僅かの間に極めて複雑なる長々しき夢を見ることは、この事實からして説明することが出来る。

今翻つて上に述べ來つた夢を構成する四種の作用を通覽すると、夢を構成するには何等の知的作用も與つて居ないといふことが第一に氣付かれる。夢の作用は主として、以前より潜在して居た夢の思想を、他の形式に翻譯するといふに外な

らないで、その間に何等創作的作用の行はれた所がない。決斷・計算・判斷・比較・斷定等の思考作用は少しも行はれない。夢の中では或空想を推敲することすらしない、そのまゝ採用することがある。夢の中に知的作用を行ふやうな部分があつても、それは潜在内容から直接に又は變装せしめて採用して居るに過ぎない。又夢の中に表はれる數字や演説の文句などに就ても同様に説明することが出来る。夢に對する覺醒時の判斷の中にすら、潜在内容に屬するものがある位である。之を要するに夢を構成するといふことは、以前より存在する精神作用を變形せしむることに過ぎないのである。

故に夢を構成する作用は、覺醒時の精神作用と大に相違して居る。夢の内容は覺醒時の思想よりも不注意・不正當・不完全・非論理的で忘れ易いばかりでなく、二者は全く根本的に相違して居る。夢の内容では明かに矛盾があつても少しも頓着しない、不合理の類推も行はれる、又全く異つた觀念も外見的聯絡によりて聯



合せられるといふ有様で、若しかやうな精神作用が覺醒時に起つたならば、全く知能に異狀を呈したと思ふに相違ない。實にユングが言つた通りに、夢は早發痴呆やその他の精神病の晩期に見る所の精神状態とよく似て居るのである。しかし夢の潜在内容は之と全く反して條理整然たるものであることは、既に述べた通りである。

### 七、夢に於ける情緒

夢の中に表はれた情緒は、吾人が目を醒ました後で、その夢の内容を輕視する程、價値の少ないものでないとのストリッケルの言は實に聰明なる注意である。例へば茲に強盜に襲はれた夢を見たとする。その強盜は想像的であるけれど、恐怖の感情は實際である。何か喜ばしい夢を見た場合も之と同一である。吾人の經驗からいふと、夢中に經驗された情緒は、覺醒中に經驗された同強度の情緒よりも決して價値に於て劣れる所がなく、表象内容を有するものよりも却て強い勢力

を有して居る。夢の中に於ける情緒と表象とは相互に一致して居ないから、之を覺醒状態に於て評價する際往々誤謬を生ずる。蓋し覺醒状態に於て情緒はその表象内容と結合せしめて心理的に評價せらるゝからである。

覺醒状態に於ては、表象内容は必ず情的影響を伴ふものと吾人は考ふるけれど、夢に於ては何等の情緒を伴はない場合がある。それでストリッケルは、夢に於ける表象はその心理的價値を失つて居ると云つて居る。夢に於ては又之と反對に、情緒の遊離に何等の機會を與ふるやうに見えない内容の場合に、烈しい情緒の表出が現はるゝことがある。例へば吾人は夢の中で戰慄すべき、或は危険極まる、或は嫌はしき状態にありながら、何等恐怖の情も嫌惡の念も生じないことがある。之に反して何等危険もないことに吃驚したり、些細な子供らしいことを非常に喜んだりする夢を見ることもある。

かやうに夢の内容が烈しい情緒を伴つたり、或は伴ふべき所に伴はなかつたり



することは、その夢の思想に訴つて見ると、委細明了になるものである。夢の思想が顕在内容に表はれる際に、情緒が何故に抑壓されて、その強度を弱めるかといふに、フロイドは之を以て睡眠中には感覺的側面より運動的側面に向つて前進する運動が休止する爲めであるとし、(氏は情緒の過程を以て全然遠心的のものであると考へた)又一部は意識の監視作用によりて抑壓される爲めであるとした。故に潜在内容が平靜で、それから感動的なる顕在内容を生ずることは決してない。夢の内容では往々何んでもない事に感動的のことはあるけれど、夢を分析して見るとその何でもない事は一の變装に過ぎないで、やはり夢の思想は感動的であることが分かる。

顕在内容に表はるゝ情緒と、潜在内容に表はるゝ情緒との間に、強度の差あることは、精神病者に於て最も著しく表はれるものである。情緒はその性質より云へば少しも變化はないが、神經病的注意の轉移によりて、情緒の強度が著しく昂

進するものである。ヒステリー患者が些細なことに恐れたり、強迫觀念を有する人が、何でもないことに苦悶するといふのを不思議であると考えるのは、その表象内容即ち些細なことや何でもないことを出發點として、此の現象を考ふるからである。

情緒が顕在内容に表はれてくる場合には、上述の如くその強度は弱くなることも又は強くなることもあるけれど、その性質に至ては少しも變化しない。それでステークルは、「夢に於て眞なるものは情緒のみである」と云つて居る。情緒が潜在内容から顕在内容の方に表はれてくる時には、轉移・交替の作用によりて、結び付く對手が異なつてくるけれども、その形式には少しも變化はないのである。但し顕在内容に表はれた情緒が、潜在内容に於ては丁度その反對のことを代表して居ることがある。しかし之を更に精細に分析して見ると、その反對觀念は二つ共潜在内容の中に存在して居つて、孰れを持つて來ても、その場合に於てはまる



といふやうなことが明かになつてくる。覺醒時の精神作用に於ても屢見る通りに、夢の思想に於ても、丁度正反對の精神作用が親密に聯合して居ることがあるのである。

上述の例證として、先づ初めに夢の表象内容は轉移するが、情緒はそのまゝにして居る所の夢を掲げて、之を分析して見よう。

夢の内容、彼女は沙漠の中に三匹の獅子を見た。その中の三匹を笑つて見て居て少しも恐ろしく感じなかつた。その後彼女は恐れたに相違ない。蓋し木の上に攀ぢ登らうとしたからである。しかし佛蘭西語の女教師をして居る姪が既に木の上に居るのを發見した云々。

この夢を生ぜしめた動機は、英語の課業に於ける、「鬘は獅子の飾りである」といふ一句である。彼女の父は鬘のやうに顔の周りに鬚が生へて居た。又彼女の英語教師の名はライオンス嬢といふのであつた。知人が獅子に關する詩を彼女に

送つた。それで獅子が三匹になつた。而してこの三匹の獅子に對して何故に恐怖心が起つたに相違ないかといふに、彼女は一の物語を読んだことがある。それは、他人を煽動して謀叛をさせた一人の黒奴が、獵犬に追立てられ、之を免れようと木に攀ぢ登つたといふ話である。それから極めて大膽な獅子の捕獲方法に就ての話と思ひ起した。即ち人が沙漠の砂を取り上げ、これを篩にかけて處が、獅子が篩の中に残つたといふことが思ひ出されたのである。尙又極めて愉快なる併し餘まり禮儀正しくない一官吏の逸話をも夢に關係して居る。即ちその官吏が何故に長官から恩寵を被るやうに努めないかと尋ねられた際に、その男が答へるには、自分もその中にはいて行かうと努めたけれど、上役が既に上に居つたと云つた。この婦人はその夢を見た前日夫の上役の訪問を受けたといふことを聞けば、この夢の全材料は全く理解せられるのである。その人は非常に丁寧な人で彼女の手にキッスをした。それでその人は偉大な動物で、彼女の町では社交界の獅子の役目



を演じて居たに係らず、彼女はその人の前で、少しく恐ろしくなかつたといふことである。

次に夢の監視作用の爲めに、潜在内容の情緒が全く轉倒して顯在内容に表はれる例を述ぶると下の如くである。フロイドが嘗て次のやうな夢を見た。友人Rは私の伯父である。私は彼に對して大變に懐しみを感じた。彼の顔付が私の面前で幾分變化して居る。即ち顔が長くなつたやうである。その顔の周圍に生えて居る金色の鬚が特に目立つて見える。

この夢を分析して見ると、友人Rと伯父ヨゼフとを混同して居るやうである。顔の長いのと金色の鬚とは伯父の顔に似て居る。友人Rは極めて黒い毛で、それが少し灰色が、つて來て居る。又伯父のヨゼフは犯罪人である。それは氏の父の言によると、伯父は決して悪い人でないけれど、意志の弱い爲めに悲慘な目に逢つたといふことである。それで「友人Rは私の伯父である」といふことは、友人

Rは意志の弱い人であるといふことを意味して居る。而して氏が彼に對して懐しく感ずるといふことは眞實でない。犯罪者たる伯父に懐しみを感じないのは言ふまでもない。又Rは數年來氏に對して忠實であるけれど、若し氏が彼に對して親愛の情を示すやうなことがあれば、それは不思議に思はれる位の間柄である。それでこの親愛の情は潜在内容に存在しないのみならず、却てその反對の情緒を有して居ることが分かる。即ち氏は夢の思想ではRを罵倒して居るが、氏自身には少しも之に氣付かず、その反對即ち親愛の情を夢に表はして居る。

#### 八、夢の材料とその淵源

夢に表はるゝ記憶に三つの特質があるといふことは、多くの人によりて認められて居る。即ち(一)最近の印象が夢に表はれること、(二)覺醒時の記憶に於けるよりも、異なつた原理によりて經驗を選択する、即ち基本的の重要なる事柄よりは、殆んど注意に上らない程、些末なる事柄の方が却つてよく記憶されて居ること、



(三)幼少の折の出来事で、極つまらない爲めに、覺醒時には永い間忘れて居た印象が表はれて來ること等がある。

この三特質の中で、(一)と(二)とは極めて密接の關係を有して居るからして、一處に説明を試みよう。如何なる夢にも、その人が最後の覺醒時に於て經驗した精神作用が必ず表はれるものである。假令この頃の經驗に屬することでも、夢の直ぐ前の日に經驗したものの外は、皆舊い記憶と同様に取扱はれるのである。それで前日の精神的經驗は、夢を作る上に特に重要な性質を有して居るに相違ない。即ち前日の經驗をよく調査して見ると、その中には心理的に重要なものと、全く中性的のものとがある。併しその中性的のものは、必ず或る重要な潜在的經驗と聯絡して居る。

夢の淵源には四種類ある。(a)夢の中に直接表はれて居る近頃の重要な一個の經驗、(b)夢によりて統一されて居る、近頃の重要な數多の經驗、(c)結び付

て居る中性の經驗の出現によりて、間接に夢の内容に表はれて居る近頃の重要な一個若くは多數の經驗、(d)内部の重要な經驗(記憶・思想の通行)、これはそれと聯絡して居る近頃の中性的經驗の出現によりて、顯在内容に表はされるのが普通である。前に述べた「イルマの注射」に關する夢、「友人は私の伯父である」云々の夢は(a)に屬し、「植物紀要」に關する夢は、(c)に屬するものである。

かやうに前の日に經驗したことが、夢に表はれてくるが、その事柄は、それ自身が重要なこともあるし、或は何か他の重要なことと結び付いて居ることもある。些細な出来事が夢に表はれるのは、前日の出来事だけに限られて居る。舊い出来事で、一寸見ると些細のことのやうに思はれることが、どうして夢に表はれてくるかといふに、それは他の重要な精神作用と結びついて、その作用に伴ふ情緒がそれに移植された爲めに、それが表はれる時には、心理上極めて重要なものとなつて居るからである。故に夢を構成する材料には、心理上重要なものと、



然らざるものがあつて、重要ならざるものは、凡て前日の經驗に屬して居る。右の如き事實をフロイドは、次のやうに説明した。中性の精神作用が顯在内容に表はれる理由は、夢を作る際、中性の精神を以て、心理上極めて重大なる潜在作用を代表せしむる爲めである。例へば聯隊を代表する旗が、旗そのものには何等の價値はないが、隊の名譽を代表して居ると同様である。精神病にも之と似た徴候があつて、重要な情緒を中性の觀念に移植することが屢ある。例へば無害の事物を見て烈しく恐怖するやうな場合である。これは甲といふ恐ろしい事物に結びついて居たのが、甲と聯絡を有する乙の方に移植された結果である。之は前に述べた一種の轉移作用である。夢に於ても、精神病と同じく、潜在的の第一觀念は意識的となり得ない性質をもつて居る。夢の中に新しい經驗が表はれるのは、經驗した後あまり時間がたつて居ないので、多數の聯合を形成して居ない爲に、自然、無意識的精神作用と容易に結合する傾向があるからである。

今最近の經驗が夢に表はれた一例を挙げよう。若い婦人が下のやうな夢を見た。「彼女は燭臺に一本の蠟燭を立てようとした。しかしその蠟燭は折れてよく立たなかつた。學校に於ける子供がいふには、それは不細工である。しかしそれは彼女の責任でない」。今この夢の實際の誘因を調べて見ると、彼女はその夢を見る前日、燭臺に蠟燭を建てた。しかしその蠟燭は折れて居なかつた。茲に明白なる象徴が用ひられて居る。蠟燭は女の生殖器を刺激するものである。それが折れてよく立たないといふことは、男の陰萎を表はして居る。「それは彼女の責任でない」といふ語に照應する。注意深い教育を受け、凡ての忌まはしい事柄に遠ざかつて居た、この若い女がどうして蠟燭の利用といふことを知つたか。それは極めて偶然の經驗によつて知つたのである。彼女は嘗てライン河に小舟を浮べて居た時、ボートが一艘その傍を通つた。それには學生が乗つて居て、大きな聲で歌を謡つて居た。即ち「瑞典の女王が、締めきつた窓の戸の側で、アポロの蠟燭を以て……」と。



この歌の最後の所は聞えないか、或は理解しなかつた。彼女は寄宿舎で一度或命令を極めて不器用に行つたことがあるが、その罪のない回想が夢の内容に於て、この歌と入れ代つたのである。而して「締めきつた窓の戸」は双方に共通して居る。手淫と陰萎との結合は極めて明白である。「アポロ」なる語はこの夢が以前に見たパラス女神に關する夢と潜在内容に於て聯關して居ることを示して居る。かやうにして凡てが實際罪のない夢ではないことになるのである。此の他フロイドはかやうに、外見上は罪のないやうに見えても、その潜在内容を調べて見ると、全く之と反對して居る夢の實例を數多舉げて居る。

(三) 子供時代に經驗したことが、夢に表はれてくることは、凡ての學者の既に認めて居る所である。中には顯在内容に表はれた事柄を、本人は嘗て經驗したことを全く忘れて仕舞つて、往々客觀的に自己の經驗たることを立證することがある。忘却されたる記憶は顯在内容に表はれる計りでなく、亦潜在内容に表はれる

ことが更に多い。フロイドは夢の潜在内容はすべて幼少の時の精神作用と結びついて居るに相違ないと考へる。一婦人患者は次のやうな夢を見た。即ち「彼女は大きい室に居る。そこには種々の機械がある。それは醫療的體操器具のやうに見える。彼女はフロイドが時間がないので、他の五人と同時に治療を受けなければならぬといふことを聞いた。しかし彼女は反抗して、彼女に定められた寢床に寢ようとしなさい。彼女は隅の處に立つて、フロイドがそれは嘘であるといふのを待つて居た。他のものは彼女が滑稽であるといつて笑つた。——恰も彼女は多くの小さい四角形を作らんとして居るかのやうに」と。

この夢の最初の部分は、フロイドの治療に關係して居る。第二の部分は子供時代の光景を暗示して居る。寢床の記述で二つ部分が相互に接合して居る。醫療的體操云々は、氏がその患者に向つて、氏の繼續的治療をその本質よりして醫療的體操と比較して説明したことに聯關して居る。氏は又目下時間が少なくて充分彼女に接



することが出来ないが、やがて全時間を彼女に捧げることが出来るであらうと屢  
彼女に話した。この事が彼女の幼時の経験を呼び起した。彼女は子供の時から愛  
情に飢ゑて居た。彼女は六人兄弟の中で最も若い。(夢の中に他の五人と表はれて  
居る)而して父の秘藏兒であつたが、父は彼女の爲めに僅かな時間と注意とを捧  
げた。それは嘘であるとフロイドがいふまで待つた云々といふことは次の原因か  
ら來て居る。一人の小さい仕立屋の若者が衣服を持つて來た。それで金をその者  
に拂つた。その時彼女はその者に向つて、若し金を失つたら、も一度金を拂はな  
ければならないかと尋ねた。その者は彼女を嘲弄する爲めに、さうですといつた。  
彼女は初めてこんな珍らしいことをきくので、その男が最後にそれは嘘ですとい  
ふのを待つて居た。これは又フロイドが二倍の時を彼女に捧ぐるやうになれば、  
二倍の拂ひをしなければならぬといふ吝しい汚れた者が、夢の潜在内容を形成し  
て居ることを示して居る。(小供時代の不潔なことは、夢に於ては往々金錢に對す

る吝嗇として表はれる。蓋し汚いといふことが兩者の懸橋になつて居るからであ  
る)。フロイドがそれは嘘ですといふのを待つて居た云々の夢が、汚いといふこと  
を表はして居ることは、一方に隅に立て居るといふこと、及び寢床にねないとい  
ふこと、一致して居る。これは子供時代の光景の一部で、彼女が寢床を汚すこと  
があれば、罰として窓の隅に立たせられ、父は最年彼女を愛しないと威喝されて  
居た。それを他の姉妹は笑つて見て居たといふことである。小さい四角形は、彼  
女に一種の計算法を教へた小さい姪に關係して居る。その計算法といふのは各方  
面に計算して十五になるやうに九個の正方形の中に數字を書き入れる一種の方法  
であつた。

從來消化困難が夢を惹起すとか、神經的刺激又は身體的刺激が夢の原因とな  
るとか考へられた。フロイドによると、睡眠中に於ける身體的刺激は決して夢の原  
因となることはない、たゞ夢の組織中に織り込まれるだけであるとする。しかし



夢の材料となるには、他の心理的材料と同じく或條件を充たさなければならぬ。例へば睡眠中に烈しい痛みを生ずるとすると、それに對する反應の方法には種々ある。第一肉體的疾病の場合に往々表はれるやうに全くそれを無視する場合がある。第二睡眠中それを感じては居るが、少しも夢にならない場合がある。第三その爲めに目が醒める場合がある。第四それを夢の中に織り込む場合がある。この最後の場合に於ても、變装されて夢の中に織り込まれるもので、それは刺激の性質に基いて變装せられるのでなく、夢の他の部分の性質によりて、その場合に當てはまるやうに變装されるものである。それで同じ人が同じ刺激を受けた場合に於ても、その時の夢の異なるに従つて、全く違つた形をとつて表はれるのである。かやうに夢の性質により又動機によりて變装する有様が異つて行くことは、夢を分析して見ると明白になつてくる。之を要するに、夢は單に身體の刺激を利用するに過ぎないので、而もその刺激はその夢にうまく當てはまるやうに、變装作用

を被つて、夢の中に織り込まれるものである。

### 九、代表的の夢

第一の代表的の夢は肌着のまゝで居たとか、不完全な化粧室に居たとかいふ夢を見ることである。かやうな夢はどうして起るかといふに、それは吾人の露示(exposition)の欲望に起因して居る。子供はよく裸になりたがり、客などがあるとわざと衣服を脱いで、陰部を露示する傾向がある。或種の精神病者にも之と同様の行爲がある。未だ羞耻の念が表はれて居ない子供時代は實に天國である。漸次的な生活や文化の影響の爲めに、吾人に羞耻の念を生じ、天國から遠ざかつて行く。所が毎夜夢の中で吾人は昔の天國に歸ることが出来る。故に裸の夢はこの露示の願望を實現したものと見ることが出来る。しかし例の監視作用は無意識界にも行はれて、赤裸々にこの露示の願望を實現することをしないで、種々と變化して表はれる。例へばフロイドが、浴室から出てくる途中で、女中に會ひ、せん方



なく階段の所に身體をくつゝけて居たといふ夢を見たのは、やはり露示の夢に相違ないのである。

次に代表的の夢は、吾人の兄弟・姉妹・両親、又近親の死んだ夢を見ることである。吾人は今兄弟姉妹を愛して少しも彼等の死を希望したことのないのに何故に彼等の死を夢みるのであらうか。それは吾人の幼時の願望が今尙夢となつて表はれてくるのである。子供が三四歳の頃、その弟か又は妹が生れた場合を観察すると、這般の事實は明かになつてくる。その子供は非常に嫉妬心を起し、母が嬰兒に乳を飲ますのを嫌ひ、時には乳兒を母の膝より引ずり下ろさんとするこゝとさへあるのである。この時その子供は乳兒がどこか餘所に行つて仕舞へばいゝがと欲することは慥かである。子供が死といふのは大人の場合と異なつて、單にその者の除去せらるゝことを意味する。それで弟や妹が死ぬことを希望するのは、單にそれ等が他所に行けばいゝがといふ願望に外ならない。

弟妹が愛の競争者となるばかりでなく、両親も亦競争者となるものである。即ち男兒は父を排除して母愛を専有せんとし、女兒は母を驅逐して父愛を獨占せんとするものである。この幼時の願望が漸次抑壓されて、本人には全く無意識になつて居るが、監視作用が比較的勢力を失つた夢に於て再現され、両親の死を夢みることがある。父親の死を希望することは、子供の精神と相似た野蠻民族の精神にも表はれるもので、エディプス王の傳説及びソフォクレスの書いた同名の劇は即ちその願望を表はしたものである。今ソフォクレスの劇の大要を述べると次の如くである。

エディプスの父ライオスはテーベの王で淫亂の質であつた。嘗て劣情に驅られてペロプのネクリシッポスを誘拐した。それでペロプは怒つてライオスを呪ひ、彼が子なくして死ぬか、或は子を生んでもその子の爲めに殺さるべきとを豫言した。所が王妃ヨカステとの間に一子を生んだので、ライオスはその豫言を恐れて之を



捨てさせた。その子は牧者に拾はれて、コリント王ポリプスの許に連れて行かれ、そこで王子として成長した。その子が即ちエディプスである。やがてエディプスは自分が棄兒であるといふことを聞き、事の眞偽を確かめようと、デルファイの神殿に行つて伺つて見た。所が神宣はエディプスの父は誰であるかを示さないで、彼の父を殺し母と婚するに至るであらうと告げた。エディプスは非常に驚き、茫然として反對の途の方に彷徨つたが、途中で一臺の軍車に出會つた。彼は車上に疾呼する御者の無禮を怒つて刃傷に及んだ揚句、御者も車の主をも殺してしまつた、所がその車の主は彼の父ライオスである。勿論彼はその父たることを知る由もなかつた。やがて憤怒の神マルスはスフィンクスをテーベに送り、その謎を解くことの出来ぬものは凡て之を喰ひ殺した。それでテーベの人民は、この謎を解くものは、王位を譲り王妃と配すべき旨を宣言した。エディプスは偶然その謎を解くことが出来、人民の約束に基いて母たる王妃と婚するに至つた。最初は威厳ある王と

して、二男二女を生んだが、やがて彼の身分が知れて、彼は父を殺して母と婚するに至つたことが分つて來た。それでエディプスは天日を仰ぐに堪へないとして自ら双眼を抉り出して盲目となつた。その子供も彼に對して冷酷を極め、且つ兄弟争ひをして遂に双方とも陣没するに至つたといふ話である。フロイドによると、このエディプス錯綜は、古代の傳説や神説に多く見られる所で、シエクスピアーの書いたハムレット劇もこのエディプス錯綜と同一性質のものであると言つて居る。

#### 十、内精神的監視

吾人は前に監視作用に就て屢述べたが、今少しくこの事を闡明する必要がある。それには先づフロイドの無意識精神作用の説を知らなければならぬ。即ち氏によると、興へられたる瞬間に於て吾人の意識して居る精神作用を「意識的」と名づけ、自發的隨意的に意識し得る精神作用を「前意識的」(Vorbewusste)と稱する。例へばその時は意識されて居ないけれども、容易に憶ひ出すことの出来る記憶の



如きは即ちそれである。之に反して自發的に意識に浮べることの出来ない精神作用を「無意識的」と名づける。但し催眠術や精神分析法を用ふると、之を再生せしむることが出来るのである。

この無意識になつて居るものを意識界に喚び起すには、之を抑壓して居る力を除去しなければならぬ。即ちこの力の抑壓によりて、精神作用が意識的となることが出来ない。凡て或種の精神作用が一次的又は二次的に意識中に同化する事が出来ないやうになると、それを意識から隔離するやうにする。その結果無意識になるのであるから、この力は一種の保護作用を營むと云ふべきである。或種の精神作用を抑へて無意識にして置くこの力を名づけて「内精神的監視」とフロイドはいうて居る。覺醒して居る間は、特に或異常を來すにあらざれば、無意識作用が外部に表はれてくることはない。所が睡眠して居る間は、凡ての意識作用と同じく、この監視作用も全く無くなることはないが、大にその力が減退して

る。それで潜在内容たる無意識作用は夢の形をとつて表はれてくるのである。しかし監視作用は全く休止して居るのでないから、その監視の眼を盗む爲めに、種々の工夫をする。夢に於ける變裝作用は即ち監視を免れる一手段である。何故に夢が出来るかといふと、それは吾人が實現せんとする願望と内精神的監視との妥協の結果に過ぎない。故に夢を生ずるには、監視作用の力が催眠中に幾分減退することが必要である。

夢の思想が監視の眼を遁れる方法としては、壓縮や轉移の作用のみに限らず、又推敲作用も行ふことは既に述べた所である。所がこの推敲作用は覺醒後にも行はれるものであるから、醒めてから直ぐに物語つた夢の内容と、暫らくたつてから話した夢とは大分異つた所がある。而してこの前の叙述と後の叙述との間の變化した部分は、必ず夢の思想の變裝した中の弱い部分に限つて居る。即ち覺醒後、意識の監視作用によつて推敲せられ、變裝の不十分な點を強めるのである。



かやうに變裝の不十分な點に變更を加へる代りに、監視作用がその記憶の眞偽に就て、本人の心に疑を惹起すやうにすることである。假へば「夢の中の人はこれ／＼のものを持つて居たやうにも思へるが、夢を思ひ出す際にそんな風に想像したのかも知れない」などいふ場合がある。かやうに本人が自ら疑はしとする點は、却て記憶の最も明瞭な點であると斷言しても差支ない。蓋しこの疑は潜在内容が變裝を行ふ手續中の一階段たるに過ぎないからである。

次に本人が夢を見ながら、「それは夢に過ぎない」といふ確信を生ずることがある。これは夢が既に出來上つてしまつてから、遅ればせに監視作用の働いた爲めである。或精神作用が不圖意識に表はれてくると、本人はその重大なるに吃驚して、何氣なく「夢に過ぎない」としてしまふのである。吾人は夢の全部或は一部を忘却する傾向があるが、それはこの疑惑作用の擴大されたものである。フロイドはこの忘却の傾向を監視活動の抑壓作用によるとし、覺醒時に於ける忘却作用(第

六章參看)をもやはりこれに基づくと考へた。この忘れられた部分は夢の思想の中で最も烈しく抑制されて居た部分で、随つて最も重大な部分である。

#### 十一、夢の種類

夢には三種の別がある。第一は感覺的で同時に筋途の通つた夢である。子供の夢はこの種類に屬する。蓋し四歳以前の子供に於ては、變裝作用が起らず、顯在内容と潜在内容とが相一致して居るからである。この點から言つても、「夢は腦細胞の孤立した活動から生ずる」といふ説の誤つてゐることが分かる。この説では大人の夢だけが支離滅裂で、子供の夢が論理的だといふことを説明することが出來ない。加之子供の夢を見ると、達せられないで居る希望が夢の中で想像上充たされるといふことが明らかに分かる。フロイドの考によると、前に述べた通り、凡ての夢の潜在内容は達せられずに居る希望を想像上で充たすことである。即ち子供に於ては或希望が充たされないで居る、併し大人のやうにそれが抑制されて居



ない。換言すれば、意識中に同化する事の出来ないやうな性質のものでない。所が大人の希望は單に達せられないばかりでなく、意識中に同化する事の出来ない性質のものであるから、それが抑制されて居るのである。

第二の種類に屬する夢は、聯絡もあり意味も明らかではあるが、その内容は奇怪極まるもので、覺醒時に於ける生活と調和せしめることが困難である。第三種の夢は、前と反對に聯絡もなく意味もなく、全く紛糾して居る夢で、最も屢表はれるものである。この第二及び第三の種類に屬する夢は、大人に表はれるもので、その性質が奇怪で不眞實であるのは、前に述べた抑制作用の行はれた結果である。之に精神分析法を適用して、自由聯想を求めて見ると、表面に於ては何の意味もなく、又平生の經驗と何等の緣故もないやうに見ゆる精神作用でも、その實は本人と密接の關係を有する精神作用であるといふことが分かつて来る。

フロイドの研究の發端は大人の精神病者であつたことは既に述べた通りであ

る。患者には意識的の希望とそれに反對する無意識的の希望とがあつて、その兩者の妥協の結果として種々の症狀を生ずるといふことを發見した。而してこの症狀はこの二様の希望の想像的充足を諷示的に表はして居るといふことを知つた。又二つの希望系統が相争つて、無意識的のものが意識的となるのを強ひて妨害して抑制して居る場合に、始めてかゝる症狀が生ずることも明かになつた。又患者の症狀を精神分析に附して見ると、自然その夢に移つて行くから、他の精神的材料と同様にその夢を分析して見ると、その構造は精神病の症狀の構造と非常によく似て居ることが明瞭になつた。いづれの場合に於ても、深く潜んで居る精神作用を諷示的に發表したものがその材料となつて居る。而してその潜在して居る精神作用は無意識的のもので、内精神的監視作用によりて變装を行つた上で始めて發表されるのである。夢に於ても、亦症狀に於ても、この變装の行はれる有様は極めてよく似て居る。たゞ夢の方は視覚心像によりて表はれることが多いといふ



だけの相違があるのみである。

夢の顯在内容が十中八九まで視覺に屬することは人のよく知る所である。種々の思想が視覺心像の形を取つて夢に表はれる作用を、フロイドは「逆行」と名づけた。即ち抽象的の精神作用が逆行して、元の知覺作用に戻るといふ意味で名づけたのである。複雑なる夢の思想はこの逆行作用によりて、元の原料に分解されるのである。氏によると、夢及び幻視に見る逆行作用は意識の監視作用の抵抗によりて生ずるもので、又著しく元の視覺的性質をもつて居る子供時代の記憶の代表する精神作用の方に引きつけられることもその原因となつて居る。更に夢の場合に於ては、睡眠中感覺より運動に移る活動が休止して居るために、逆行作用は一層著しく表はれて來るものである。

次に夢が精神病の症狀と異つて居る點は、夢は睡眠を保護するといふことである。睡眠の妨害となる無意識的精神作用の活動に満足を與へることが即ち夢の

役目とする所である。尤も時としては恐ろしい夢の爲めに睡眠を破られることがある。しかしそれは内精神的の監視作用が睡眠中減退して居るために、夢の思想が意識に表はれるのを防ぐだけの力がないか、若しくはそれを變装せしめて不明ならしむるだけの力がない。それで監視作用が覺醒時に働く勢力に援助を求むるに至るのである。例へば、睡眠中の家を守つて居る番人の力が足りない爲めに、援助を乞ふ爲めに眠つて居る家人を呼び醒すやうにすると同一である。



## 第四章 性慾と子供

### 一、性の意味

吾人は前二章に於て夢は吾人の願望の實現で、その願望は多く性に關係して居ること、並にヒステリー患者の病源も亦性慾の抑壓に基づいて居ることを述べた。茲に於て諸君は恐らくフロイドの所謂「性慾」或は「性的」なる語が、普通に用ゐらるゝ用語よりも餘程その意味が廣く、一般に性的と認めて居ないことまでもその中に含まれて居るといふことに氣付かれたであらう。併し氏は通常の意味を無理にこぢつけようとする爲にしかするのではない。一般に性慾本能より由來したものと見做されない精神作用でも、精神分析を行つて見ると、その實は性慾と深い關係を有して居ることが明かになつたので、その「性的」なる概念の範圍を廣くしただけで、決して舊來の術語の包攝を廣げた譯でない。假令一步を譲つて、性的



といふ語を以て生殖本能に關係ある傾向のみを意味すると解しても、直接生殖行爲を促す衝動のみに限ることは出來ない。蓋し生殖行爲と直接に關係をして居ないでも、その本性に於て「性的」なるものは少くない。例へば物品崇拜の如き性慾倒錯は、その本性から見ると明かに生殖行爲を否定して居るけれど、その意味を充分に搜ると、誰もそれが性慾的のものであることを疑はない。羞耻・残忍の如き普通に見らるゝ現象も本來は性慾本能に由來したものであることは、人類學者の認めて居る所であるが、其は直接生殖行爲の完成に與つて居るものでない。併し間接に生殖と關係して居ることは眞實である。かやうな論據よりして、氏は「性的」といふ語を廣く用ひて、羞耻のやうな性的本能より由來する精神作用は、悉く性的と稱するのが至當であるとした。元來吾人には精神作用の蔭に性慾が潜んで居ても、故意に其を否定しようとする偏見がある。フロイドはかゝる偏見が如何に人の心の底に深く根ざして居るかを指摘し、氏自身努めて之の偏見から脱し

ようと努めた。氏が最初ブロイエルと共にヒステリー患者を研究した時代は、未だ現時に見るが如き汎性慾説を主張して居なかつたが、その後研究を積むに隨つて益汎性慾説の正常なることを認めたとである。

## 二、性慾の倒錯

氏の性慾説を論ずるには先づ性慾倒錯より述べなければならぬ。氏はまづ(一)誘引の元となる性慾の對手と、(二)衝動の働く活動即ち性慾の目的とを區別して居る。従つて性慾の倒錯も二種類に分けられる。一は普通に性慾の對手たるものに變動を來たすもので、之に三種ある。即ち(イ)同性を愛して異性に無頓着なるもの、(ロ)兩性とも孰れも無差別に愛するもの、(ハ)外部の事情よりして通常の性慾の對手を得ること出來ずして、遂に同性のものを愛するに至りしものである。何故にかゝる同性慾に陥るかに就て、或人は變質に基づくとし、或人は先天的性質であるとした。しかし此等の倒錯は正常の人にも起るので、之を以て變質に基づ



くとは言へない。又此等の倒錯を惹起した事情は一々之を探ることが出来るからして、決して先天的でなく、寧ろ外部の事情に基づくと言ふものもある。そこでフロイドは此等の二説に對して兩性説なるものを主張する。即ち斯の如き倒錯を生ずるのは、解剖的にも心理的にも吾人は兩性的の性質を具へて居るため、同性を對手とする場合があれば、之に對して異性を對手とした時と同様の快感が得られるのであると説明する。對手の倒錯には又同性に關するものばかりでなく、子供をその對手に選び、時としては同種族の制限を超えて家畜と性的關係を結ぶものすらあるのである。

物品崇拜も性慾の對手の倒錯に屬する。通常の性的目的に全く不適當なものが、性慾の對手の代表をすることがある。此代表物は一般に性的目的に適應しない身體の一部、例へば足・毛・或は對手の人に關係せる無生物、殊にその人の性と關係せるもの、例へば衣服の斷片・白の下着等である。ゲートルはファウストをして、彼

女の胸から、私の愛の徽章ともなるべき一のハンケチを得たい」と謠はしめた。或程度の物品崇拜は常人にも存して居る。愛を求めて未だその目的を達せざる間は殊に然りである。病的の物品崇拜は唯その度が烈しいと云ふに過ぎない。野蠻民族の物品崇拜にも性慾の倒錯に基づくものがある。足が最原始的なる性的象徴であつたことは神話に屢發見せらるゝ所である。此他靴やスリッパは女の生殖器の象徴であり、毛皮も恐らく陰部の毛多きことを聯想せらるゝ爲めに同一の象徴であつた。かゝる象徴主義は亦兒童期の性的表出に屢見らるゝ所である。

(二)性慾本來の目的に關する倒錯にも種々ある。性慾を満足せしむるには、單に生殖器の交接のみに限られて居ない。舌・唇及び口腔の粘膜が生殖器の代用をする場合が多く、中にはこの方法を却て好むものすらある。又肛門が性的目的に用ひらるゝことも珍らしいことでない。かゝる傾向は勿論通常人にもあるが、嫌惡の感によりて制遏せらるゝものである。この嫌惡の感が往々病的に昂進して、異



性の生殖器すら嫌ふやうになることがある。これは凡てのヒステリー患者殊に婦人患者の特質として表はるゝことが多い。しかし性的衝動力が強大となる時は、容易にこの嫌惡の感に打勝ち、種々の倒錯的行爲に陥るものである。

陰萎・對手を得るに高價なること・性的行爲の危険等の爲めに通常の性慾がその目的を果たすこと出来ないか、或は目的の到達が遠くにある場合には、豫備的行爲にさまよふ傾向が強くなり、遂にそれを性慾の目的にして、通常の目的の代りとするやうになる。或程度の觸接が通常の性的目的を達する爲めに用ひらるゝことは免るべからざること、相手の皮膚に觸れることが一般に多くの愉快を惹起し、新しい興奮を供給する。視的印象が性的興奮を惹起すことも之と同様である。文明の進むと共に身體を蔽ふことが厲行されるが、其を裸にして見たいと云ふ性的好奇心は誰でも持つて居る。かの藝術的に裸體美を賞するのもこの衝動の純化に過ぎない。故に性的行爲をなす前に、相手に觸れたり又は之を視たりするのは

倒錯にまで至らないのである。しかし此等の行爲が單に相手の身體でなく、生殖器のみに限られるとか、或はその行爲が烈しくなつて、便所や湯屋を覗くやうになるとか、此等の行爲が性的目的となつて、單に豫備的目的でなくなる場合には倒錯と名づけられる。かの自己の生殖器を見せたがる患者の如きも性慾倒錯で、他人の生殖器を見たと同一種類に屬すべきものである。只性的目的が能動と所動とに二様の形式を取つて表はれたに過ぎない。

能動と所動との形式を取つて表はるゝ性慾倒錯の中で最も著しいものは、<sup>サディズム</sup> Sadism と <sup>マソヒズム</sup> Masochism とである。前者は能動的で相手の男又は女に苦痛を與へ、又は殘酷に取扱ふことによつて快感を得るもので、後者は所動的で相手の男又は女より身體或は精神的に苦痛を與へられて満足を感じるものである。此等の倒錯もその起源を尋ねると以前は正常的行爲であつたに相違ない。蓋し吾人の祖先は單に相手の機嫌を取る計りでなく、時としては相手の抵抗に打勝つて性慾を満足



するの必要があつたに相違ない。現時でも通常の性的行爲には進撃的色彩を帯びて居ることが多い。従つてサディズムはこの進撃的要素が病的に擴大されたものと見て差支ないやうである。マソヒズムは尙烈しい倒錯であるが、それは最初性的對象となつた時に自身に振り向けられたサディズムの繼續に外ならない場合がある。マソヒズムの極度に烈しい場合を分析して見ると、最初の所動的性的態度を擴大し固定した多くの要素(去勢に伴ふ精神錯綜・道義心)が相共働して居るのが分かる。次に又このサディズムとマソヒズムとが共に同一人によりて所有されることもある。即ち此種の人は性的關係に於て他人に苦痛を與へて喜ぶが、亦性的關係より生ずる苦痛をも愉快と感ずることが出来るのである。

以上列記した諸種の倒錯は凡て精神病者に著しく表はるゝ所であるが、通常人にもその傾向の存することは否定することが出来ない。唯倒錯の度合が通常人より精神病者へと漸進して居るに過ぎないで、二つの間に劃然たる區分をつけるこ

とが出来ない。メービアスが凡て吾人は幾分ヒステリー的であると言つたのは實に穿つた言である。此等の倒錯の原因に就て、或人は生得的であると云ひ、或人は偶然的經驗に基づくと説明するが、其等は凡て病的方面のみを見て論じたに過ぎない。フロイドによると、倒錯傾向は勿論生得的であるが、その傾向は吾人凡てが所有して居る。併しその強度が人によりて異なり、又人生の影響の爲めに或人のみが著しく倒錯を現はすのである。詳言すれば、かゝる倒錯は既に子供の時から潜在して居るが、教育の力によりて通常は抑壓されてしまひ、その衝動に伴ふ心的勢力は純化されて、もつと社會的に價值ある方面に向けられるのである。かやうに教育の力によつて純化される普通の場合以外に尙二つの場合が可能である。即ち(一)その傾向が異常なる勢力を得、その爲め前に述べたやうな性慾の倒錯が實際に現はれてくる場合と、(二)その衝動と之を抑壓しようとする勢力との争闘が烈しい爲に、その衝動が精神病の症狀となつて現はれる場合とがある。後



の場合に於て、倒錯した衝動を變装した形で満足せしむることが即ち精神病の症状である。ヒステリーの症状も亦消極的倒錯を代表して居る。然らば如上の三つの場合の中、孰れか一つの道をとつて現はれて来る幼時の傾向とは如何なるものであるか、又如何にそれが發達するかといふに、フロイドは次に述ぶるやうな從來にない大膽な説明を試みて居る。

### 三、性に關する質問

從來子供の時代といふと、寧ろ性慾衝動のないことを特色として居るやうに考へ、青春期に至つて初めて性慾の衝動が發生すること、恰も悪魔が豚の身體にはひり込むと福音書にいふ通りであると思つて居るが、それは大なる誤謬で、子供は生れる時から性の衝動も活動も具へて居る。大人の性慾はつまりこの中から種々の階級を経て發達して來るのである。吾人は前章に於て、健康なる大人や、精神病者などの夢を分析して見ると、その夢の淵源が子供時代の性的生活に存して

居ることが極めて多いことを述べた。之は勿論間接的證明であるが、子供の生活を直接に觀察しても、到る處に性の活動の現はれて居ることが知られる。而かも早きは三四歳の頃から性的衝動の存することが分かる。フロイドが五歳になる一男兒ハンスの恐怖症(Phobie)に就ての分析は充分に之を證明して居る。ユングも亦一女兒に就て同様の分析を試みた。今幼兒の性的生活の豊富なることを示す一例としてユングの研究を左に紹介しよう。

件の少女の名はアンナと云はれ、極めて伶俐で、快活で而かも健全なる情性に富んで居た。此研究が行はるゝまでは、烈しい病氣に罹つたこともなく、又神経系統に關する疾患もなかつた。アンナが約三歳の頃、一度次のやうな會話を祖母と交換した。「おばーちゃんはどうしてそんなにしなびた目をして居るの」「年取つて居るからさ」「しかし又若くなるでせう」「いゝえ、だん／＼年を取つて、おしまひには死ぬんですよ」「それから」「それからね、天使になるんです」「それからまた



赤ちやんになるんでせう」と。

アンナは茲に於て豫ねて疑問とした事を一時的に解決するの機會を得た。これより少し前に、アンナは生きた人形・小さい子供・小さい弟を持つてあらうかと常々母親に尋ねて居た。これは勿論子供の起源に關係する疑問である。しかしかやうな疑問が、自發的に間接に表はれたので、両親は別に氣にも留めず、子供の質問を面白半分に聞いて居た。アンナは嘗て父から子供は鶴がもつてくるといふ面白い話を聞いたことがある。この以前或處で子供は天に住んで居る天使で、鶴が其を天からつれてくるといふ稍眞面目な話も聞いたことがある。この原理が即ち彼女の探究的活動の出發點となつて居るやうに見える。祖母との會話から見ると、此原理が廣く應用されることが出來たといふことが分かる。即ち離別とか死去とかの苦痛的觀念が愉快なる形に於て解決せらるゝのみならず、之と同時に子供の起源に關する謎も満足に解決せられた。併し一個の石で二羽の鳥を殺すやうな解

決の仕方は、子供に於ても早晚何かの矛盾に遭遇するのは自然の數である。

アンナが四歳に達した時に弟が生れたことが、思想の變り目となつた。母の妊娠に就ては何事も言はなかつたので、少しも氣づかずに居たことは明かである。出産の前夜、母が陣痛を覺えた時には父の室に居た。父がアンナを膝の上に抱き上げて、「今晚赤ちやんが生れたら何といふの、言つて御覽」と尋ねたら、「わたし赤ちやんを殺すの」と言下に答へた。「殺す」といふことは大變重大のやうに聞えるが、實際は全く罪の無い言葉である。蓋し子供が「殺す」とか「死ぬ」とかいふことは、單に能動的又は所動的に排除することを意味するもので、これはフロイドが既に屢述べた所である。併しそれが假令罪の無い言葉にしても、此傾向を有して居ることに注意することは、あながち價值のないことではない。

この出産は朝早く醫者と産婆との立會の下に行はれた。後の始末もすつかり濟んだ後に、父はアンナの寢て居る室に行つた。その時アンナは目を覺まし、父が



ら弟が生れたことを聞いて、驚いて顔を緊張さした。父は抱き上げて産室に連れて行つた所が、アンナは稍青ざめた母に先づ急速な一瞥を與へ、失望と疑惑とに満たされた顔付をした。而してこれから何んなことが起らうとして居るかと言はる様子で、少しも赤坊の生れたことを喜んで居なかつた。その日の午前中は遠のいて居たが、今までは常に母にくつついて居たのでそれが著しく目立つて見えた。しかし母が獨りで居るのを見るや否や、室に走りて行つて母に抱きつきながら、「死なうとしてゐるんぢやないの」と尋ねた。此は兒童の心中に於ける争闘の一部を示して居る。即ち鶴の説は實際眞面目に考へられないにしても、人は死ぬることによりて子供に生命を與ふるものであるといふ再誕説を承認して居ることが分かる。即ち此説によると母は死ななければならぬ。加之新に生れた弟に對して既に嫉妬を感じて居るのに、どうしてその誕生を喜ぶことが出来ようか。此等の理由からして、好機會を見つけて、母が死ぬか否かを確めたのである。換言すれば

母が死なないやうにとの希望を述べたのである。

しかしこの再誕説は母の安産の爲めに大打撃を被つた。弟の誕生及び一般に子供の起源を如何に説明し得たのであるか。鶴説は再誕説の爲めに暗々裡に取消されたとは云へ未だ其痕跡を留めて居る。次に如何なる説明が企てられたかは、其子供が數週間祖母の處に宿つて居たので、兩親は之を知ることが出来なかつた。祖母の話によると、鶴説が屢問題となつたといふことである。其後家に歸つて来て、母に會つた時に、再び出産の時に示した失望と懷疑とを示した。其様子は假令言表はすことは出来ないが、兩親には間違なく解せられた。赤坊に對する仕打は極めて良かった。留守の間に一人の看護婦が来て居たが、その看護婦が制服を着てるので、非常な印象を與へ、その爲めに看護婦に對して最初烈しい反抗心を起した。看護婦が衣服を脱がせて眠らせようとしても、少しも言ふことを聞かない。赤坊の搖籃の近くで怒りながら看護婦に向つて、「この子はおまへの弟ぢやな



いよ、私の弟ですよ」と叫んだので、直ぐにこの看護婦に對する反抗的所業の原因が知れた。しかし漸次に看護婦と仲善くなり、自分で看護婦の真似をして遊ぶやうになつた。即ちアンナ自身にも必ず白の帽子と前垂とを着けて、弟や人形の世話をするのであつた。

以前の氣質と反對に明かに悲しげな、且夢を見てるやうな氣質になつた。屢机の側に坐りながら何か謠つて居た。その内容はよく聴取れないが、時としては看護に關するものを謠ひ、苦悶の情を表出しようとする努力して居るのが明かに見えた。この詩作をするやうな空想的態度と憂鬱的發作の傾向とが表はれてくる現象はずつと後年即ち青年に達した頃、家庭の繫縛より離れて獨立的生活に入らうとする場合に、内部には尙懷郷病による苦痛の情と兩親の温かい情とが燃えて居るのと似て居る所がある。この時青年はその戀しい情を醫すること出來ない爲めに、詩的想像を描き出してその不足を償ふやうになる。かやうに四歳の幼兒と青春期の

ものとを比較するのは、一寸見ると不合理のやうである。しかしその關係は年齢の上に存するのではなく、寧ろ機制の上に有して居る。この悲哀的幻想は如何なる事實に基くかといふに、愛情の一部が以前は實在的對象に屬して居り、且屬すべきであつたのが、今はその愛情が内部に轉じて主體に向ひ、爲めに想像的活動を増加するに至つたのである。然らばその内向の起源は何であるか、又其は此年齢時代に特有な心理的表現であるか、或はその起源は争闘に負ふ所があるか。此等の疑問は次に述ぶる出來事によりて説明せらるゝのである。

アンナは屢母の言ふことを聞かなくなつた。而して傲慢な態度で、「おばーちやんの所へ歸らうとして居る」と言ふことが屢であつた。それで母が「私を置いて行くなら悲しい」と言ふと、「でも弟が居るんですもの」と答へた。かやうな答をしたのは、再び出て行くと言つて母を威嚇しようとする實際に目論見たやうに見えた。蓋し母が何と答へるであらうか、換言すれば母がどんな態度を取るであらう



か、母の愛が弟の爲めに全く取去られはしなかつたかを知らうとしたやうに見えた。しかしこの幼き詐欺師の言をそのまゝ信用してはならない。蓋し弟が居ても母の愛に少しも變りがないことは容易に見られ且つ感ぜられることが出来るからである。故に母に對する非難は正當であるとは認められない。熟練した研究者の耳には、それは少しく情的調子を帯びて居ることが分かる。即ちこの非難は他の先驅者に過ぎないで、この後もつと厳しい抵抗が表はれて來た。前に述べた會話のあつた後、間もなく次のやうな出來事が起つて來たのである。

母が「おいで、今花園の方へ行かうとして居ますよ」といつた所が、「嘘をついて居ますね。本當なことを言つてるかどうかお氣を付けなさい」とアンナは答へた。「なにを考へてるの、いつも私は本當なことを言つてますよ」「いーえ、本當なことを言つて居ません」「私が本當なことを言つてることが直ぐ分ります。今花園の方へ行きます」「全くそれは本當ですか、眞に本當ですか、嘘については居ません

か」。かやうな光景は屢繰返された。この時の音調が以前よりも粗暴で鋭いこと、並に「嘘」といふ言葉に特に抑揚をつけることとは、何か變つたことがあるやうに思はれた。しかし兩親はそれが何事であるかを理解しなかつたし、最初又この子供の自發的言葉には餘り重きを置かなかつたので、兩親は只一般に行はるゝ教育の規程に基いて教へてやる外はなかつた。世人は一般に人生の各階級に於ける兒童に少しも注意しない。あらゆる重大なる事件に就ては兒童は責任がないとして取扱はれ、之に反して不必要な事件に就ては機械的精密を以て訓練せられることが極めて多い。

抵抗を生ずる所には常に疑問や争闘が起る。併し此等は後になつて或他の機會に於て表はるゝものである。それで抵抗と後に表はれた事との關係は通常忘られて仕舞ふことが多い。かやうにアンナは他の場合に於て母に向つて種々の難問題を提出した。即ち「大きくなつたら看護婦になりたい。おかーさんはどうして看



看護婦にならなかつたの」と尋ねた。それで母は、「かーさんになつたからさ。看護婦にならなくつても、やはり私は子供の世話をして居る」と答へた所が、アンナは暫く考へながら、「私はかーさんと違つた婦人になつて、かーさんにお話しするやうになるでせうか」と言つた。

母の答からしてその子供の質問が實際何處に向つて居るかゞ分かる。アンナは看護婦と同じやうに子供の世話をしたかつたのである。看護婦がどこで子供を得たかは極めて明瞭である。アンナも亦大きくなつたら看護婦と同じ方法で子供を得ることが出来るかと考へた。然らばどうして母は看護婦にならなかつたか、換言すれば看護婦と同じ方法によらないで、どうして子供を得ることが出来たか。看護婦のやうにすれば子供を得ることが出来る。處が將來に於て事實が變化して、子供を得る點に就て母に似るやうになるかも知れない。此等の點がアンナには不明瞭であつた。この疑からして、「實際私はおかーさんと異つた婦人になるでせう

か、凡ての點に異なるやうになるでせうか」といふやうな思慮ある質問を發したのである。鶴説は明かに價值のないものになつた。再誕説も亦同様の運命に遭遇した。それで看護婦と同じ方法で子供を得るのではなからうかと考へてたのである。かゝる見地からして、アンナは「どうしてかーさんは看護婦とならなかつたの」と尋ねた。これは即ち何故に自然の方法で子供を設けなかつたかといふ質問と同じことを意味する。

間接に質問するといふことは、子供がその問題を充分に理解しないか、或は直接に質問することを避ける爲めの外交的不確實なるかである。處がアンナの質問は第二種に屬することが後に至つて分かつて來た。彼女は「どこから子供は生れるか」といふ問題に遭遇して居る。鶴は子供をつれて來なかつた。母は死ななかつた。又看護婦と同じ方法で子供を設けたのでも無かつた。アンナは以前にこの質問を試み、父より子供は鶴がつれてくるのだと告げられたが、それは絶對的に誤



謬であつて、最早之によりて欺かれることは出来ない。父も母も又他の人々も虚言をついて居ることが分かつた。その爲めに彼女は一面に子供の誕生に就て疑を起して母を信用しなくなり、一面には内向作用を起して悲哀的想像を惹起したのである。彼女は眞實を告げないし且つ告ぐることを拒んだ兩親より愛情を受けなければならぬ。言ふことの出来ない事とは抑如何なることであるべきか、如何なることが茲に起つて居るのであるかといふやうな疑問が子供の心中に起つたに相違ない。而してその答は、「慥かに何か危険なことが秘せられて居るに相違ない」といふのである。狡猾なる質問によりて眞理を引出さうとする企が無効に歸したので、抵抗に對する抵抗を行ふやうになり、愛の内向が起つて來た。昇華作用の能力も、四歳の兒童に於ては充分に發達して居ないので、症狀を引起す位が關の山である。故に精神は或他の代償作用を求めなければならぬ。即ち力を以て愛を保つ有しよとす子供らしき方法を求めた。而して此種の方法中最多く選まれるの

は、夜に泣きながら母を呼ぶといふ方法である。アンナは熱心にこの方法を實行し、最初の一年間は凡てこの方法のみを用ひた。所が月日を経るにつれてこの現象が確定的になり、又新しく起つた出來事の爲めに影響を被るに至つた。

その出來事といふのは、メッシナに於ける地震で、その後は何時も食卓で地震の事が討議された。アンナは何れの事にも非常に興味を持ち、どんな風に地震が搖れたか、どんな風に家がこわれたか、どの位人が死んだか等と繰返し／＼祖母に尋ねた。この後夜間に恐怖を起すやうになり、一人で寝ることが出來ず、母は詮方なくアンナの室に行つて一緒に居なければならなかつた。さうしないと地震が起つて來て家が倒れて殺されはしないかと恐れた。後には日中も亦同様な考を以て滿されるやうになつた。母と外出して居た際にも「私達が内に歸るまでに家はそのまま建つて居るでせうか。内にはきつと地震がないでせうか、おとうさんはまだ生きてませうか」と尋ねて母を苦しめた。道に轉がつて居る石を見ても、



それは地震の爲めではないかと尋ね、新しい家を見ると地震にこわされた爲めに新しく建てられたのではないかと怪んだ。終には夜間地震が起るとか雷が鳴るなどと言つて泣くことが屢であつた。それで夕方になると地震は起らないことを嚴かに確かめないと氣がすまぬやうになつた。

アンナを靜かにする方法が種々と企てられた。例へば地震は火山のある所に起るものであると言つて聞かせ、その町の周圍にある山は凡て火山でないことを知らせなければならなかつた。かやうな推理作用からして漸次學習に對する熱望を生じ、父の書齋から地理に關する凡ての書籍を引出して來て説明してやらなければならなかつた。數時間火山や地震の繪を熱心に注視し、絶えずそれに就て質問を發した。かやうにして恐怖を學習に對する熱望に昇華することに努力された。その爲に此年齢に對しては早熟過ぎる程知識慾に満たされた。併し之と同じ困難に苦んで居る多數の天才的兒童と等しく、早過ぎたる昇華作用は慥かに不利益な

結果を持來たした。蓋し此年齢に於ける兒童に昇華作用をなすやうに仕向けることは、單に神経病を引起すやうに強ふると同一であるからである。學習に對する熱望の根元は恐怖である。而して恐怖は轉化されたる淫慾の表現である。換言すればそれは後で神経病となる内向の表現である。随つてこれは此年齢の兒童には不  
必要で、兒童の發育を沮害するものである。

學習に對する熱望が結局如何なる方面に向つたかといふことは、日々に起る連續的質問によりて知ることが出来る。どうしてソフィー(妹)は私より若いか、フレッデイ(弟)は以前どこや居たか、天に居たか、そこで何をして居たか、何故に前には下りて來ないで、丁度今下りて來たかといふやうな質問を發した。此等の状態よりして、父は若し機會があつたら母をして弟の起源に就て眞實な話をして聞かしめようと決心した。その後アンナが鶴に就て尋ねた時に、この事が實行された。母は鶴説が眞實でないことを告げ、且つ弟のフレッデイは恰度植物に於ける花の



様に母の体内に成長した、最初フレッデイは非常に小さかつたが、その後植物のやうにだん／＼大きくなつたと説明した。アンナは少しも驚かないで熱心に傾聴して居たが、「しかしフレッデイは獨りで出て來たんですか」と尋ねた。母は「さうです」と答へた處が、「でも歩くことが出來ないのにね」と半疊を入れた。妹のソフィーが「そんなら這つて出たんでせう」と言ふのを聞き、胸部を指さしながら「ここに穴があるんですか、それとも口から出て來たんでせうか、誰が看護婦から生れたのですか」と尋ね、直ぐに「いや、鶴が弟を天から連れて來たんだ」と自答をした。やがて此問題を中止して、再び噴火山の圖を見ようと望んだ。

この會話の交換された次の夕方アンナは靜かになつた。不意の説明の爲めに、觀念の全系列が生じて來て、その幾分が彼女の質問の中に現はれて來た。豫期しない遠景が展開されて、急に中心問題即ち何處から子供は出てくるかといふことに接近した。處が何故に子供が胸にある穴からか又は口から出てくるかといふやう

に誤つて考へるやうになつたか。何故に下腹部にある口を思ひ當らなかつたか。その説明は極めて簡單である。最初下腹部の兩方の口に興味を持つたけれど、母から不潔で不作法であるとの批評を受け、その後はその部分を禁止區域にしてしまつた。随つてこの部分が一番最後に考へられるやうになつたのである。

子供はどこから出てくるかといふ問題が決定する前に、新しい問題が起つて來た。即ち子供が母から生れるとすれば、看護婦は何をする者であるか、誰がこの場合に出てくるかといふ疑問が起つた。それで「いや、鶴が弟を天から運んで來た」といふ注釋を與へた。誰れ一人として看護婦から出て來ないといふ事實を知つて何か特別なことが起つたのであるか。以前アンナは看護婦と同じやうに子供を持ちたいといふことからして、看護婦の眞似をし、大きくなつたら看護婦にならうと望んだ。しかし今弟は母の体内に生長したといふことを知るに至つた。然らばその問題はどうかであらうか。此等の問題は、以前信ぜられなかつた鶴の



説に急に復歸することによつて撃退されたが、その説も二三の吟味の後全く棄てられてしまつた。茲に於て二個の問題は未決のままに残された。即ち第一に何處から子供は出てくるか、第二に看護婦や女中は子供を生まないのに、母のみがどうして子供を持つやうになつたか。勿論この二問題は最初その姿を現はして居なかつた。

母の説明のあつた次の日食事をして居る際に、突然次のやうなことを言つた。

「私の弟はイタリーに居て、布と硝子とから出来た家を持って居た。併しその家は倒れなかつた」と。この場合も亦この話の説明を尋ねることは不可能であつた。蓋し抵抗が餘りに強く、アンナを會話に導くことは困難であつたからである。アンナ姉妹は此時三ヶ月ばかりの間に「大きい兄」といふ想像的概念を作り出した。此兄は何でも知つて居て、何でもすることが出来、何でも持つて居る。子供の居ない所には何處でも住まつて居たし、又住まつて居る。又大きい牝牛・牡牛・馬・犬

を所有し、何でもその人の所有である。姉妹各一人の「大きい兄」を持つて居る。吾人は此空想の起源に就て遠く求むるを要しない。その雛形は父で、凡て前述の概念に相當して居る。「兄」といふのは父が母の兄のやうに見えるからである。この「兄」は力強くて、勇氣に富み、今は危険の多い伊太利に居るけれど、少しも破れ無い家に住んで居る。而してその家は少しも倒れない。この「家が倒れない」といふのは、その子供の重大なる願望の實現である。地震は最早危険でなくなり、地震に對する恐怖も全く消失した。これまでは恐怖を祓ふやうに寢床に父を呼寄せて居たのが、今は大變に情愛が深くなつて毎夜接吻してくれるやうに父に願つた。この新状態を試験する爲めに、父は慘憺たる火山や地震の光景を示す畫を見せた處が、アンナは少しも感動せらるゝことなく、無頓着な有様にその畫を見ながら、「此の人達は死んで居る、私は度々この畫を見た」と云つたに過ぎなかつた。之と同時に凡ての科學的興味は、それが發生した時と同じく突然消失し去つた。



母が説明した次の日は、一日中全く重大なる事件によつて彼女の心は占領された。その周囲の人に向つてフレッドイも彼女も妹も母の體内に生長し、母や父は夫々その母の體内に生長し、女中も同じくその母の體内に生長するものであると、新たに得た知識を傳へ、時々はそれが本當であるといふことを確めながら話した。又屢問を發して其知識の眞の根據を試験した。蓋し彼女はその不確實を除去する爲めに、多くの確證を要する程、懷疑の念が烈しく起るからである。

所が偶然の出來事の爲めにこの原理の信用が全く破壊されるやうな破目に陥つた。母からの説明があつてから約一週間ばかり経つと、父がインフルエンザに罹つて、午前中寢て居なければならなかつた。子供達は少しもこの事を知らず、アンナが兩親の寢室に這入つて來て初めて父が寢て居るのを見た。彼女は又驚いた表情をなし、父の側に寄りつかないで居た。何か怪しみながら、控へて居る風が明かに見えた。所が突然父に向つて、「どうして寢て居るの、お父さんのお腹の中に

も植物があるんですか」と尋ねた。父は自然笑はざるを得なかつた。しかし父の腹には子供は成長しない、女のみが子供を持つことが出來て、男には出來ないといふことを教へて、落付かした。それで父と再び親しくなつた。しかしこの平靜は表面だけで、心の奥底には絶えず此問題が潜んで居た。二三日の後に食事の際、「私は昨夜ノアの船の夢を見ました」と語つた、それで父はその事に就てどんな夢を見たかと尋ねたけれど、アンナの答は全く無意味であつた。かゝる場合には注意を怠らないで、時期の到るを待つのが必要である。數分の後母に向つて、「昨夜ノアの船のことを夢みた。そこには小さい動物が澤山乗つて居ました」と言つた。暫らくしてから又、次のやうなことを話した。「昨夜ノアの船の夢を見ました。小さい動物がどつさりその船に乗つて居ました。下の方に蓋があつて、それが開いて、小さい動物は凡て落ちてしまつた」と。

アンナは實際ノアの船を持つて居た。しかしその口と蓋とは屋根の處にあつて



下の方には無かつた。子供が口から或は胸から生れるといふ話は誤りであるといふこと、又彼女は子供の出てくる場所に就て何かの暗示を有して居るといふことをかやうにして諷示した。其後二三週間は別に大した事も起らずに済んだ。所が或夜次のやうな夢を見た。「私は父と母との夢を見た。二人とも夜遅くまで書齋に起きて居て、吾々子供等も亦そこに居た」と。これよりして子供は兩親と同じやうに遅くまで起きて居ることを許されたいとの願望を持つて居ることが分かる。換言すればこの夢は兩親が獨りで居る時の夕方にその側に居たいといふ重大な願望の實現である。しかしそれは種々面白い本を見たり、知識慾を満足せしめたりする書齋に無邪氣に居ようと言ふのであるとは勿論である。その知識慾といふのは、換言すれば弟が何處から來たかの強烈なる問題に對する答を得んと欲求であつた。而して彼女がその室に居たならば、恐らく其答を得るに至るであらう。二三日後アンナは恐ろしい夢を見たと見え、「地震がして來て、家が揺り初めた」と

叫びながら目を覺ました。それで母は走つて行つて地震は少しもなく、凡てが静かだ、みんなの人も寢て居ると言つて静めてやつた。所がアンナが言ふに、「私は春が來てあらゆる小さい花が咲き初め、芝生が花で一杯になるのを見たい——私はフレ、デイに逢ひたい——ほんとに可愛い小さな顔をもつて居る——お父さんは何をして居ますか、何と言つて居ますか」と。母が「お父さんは寢て居て、何にも言つて居ない」と言ふと、嘲弄的の笑をしながら、「明朝お父さんはきつと又病氣になるだらう」と言つた。

この最後の言葉は、冷笑的調子を以て述べられたけれど、之を眞面目に字義通りに解釋してはならない。話は少し後に戻るが、父が先きに病氣をした時、アンナは父の腹の中に植物がありしはしないかと疑つた。故にこの言葉は、「明日お父さんは急度子供を生まうとして居る」といふと同じである。しかしこの語も亦他の意味を含んで居る。即ち父は子供を産まうとして居ない、母のみが子供を生むか